

第10回 仙北市政策検証市民委員会 次第

日時：平成24年10月22日（月）
13：30～

場所：仙北市田沢湖総合開発センター
談話室

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 案 件
 - ①第9回委員会での決定事項の確認
 - ②検証結果報告書の確認について
 - ③検証結果報告の議会への報告方法について
 - ④その他
4. 閉 会

仙北市政策検証市民委員会 配布資料一覧

開催日	資料名	配布方法	チェック	備考
第1回 H24.5.15	仙北市政策検証について	当日		
	仙北市政策検証市民委員会設置要綱	当日		
	仙北市政策検証市民委員会委員名簿	当日		
	アクションプラン検証一覧	当日		
	達成目標とする指標	当日		
	仙北市の政策に係る検証結果（外部検証結果）	当日		
	今後の進め方について	当日		
第2回 H24.5.22	仙北市政策検証市民委員会の設置目的の確認	当日		
	政策検証市民委員会設置までの経緯	当日		
	仙北市政策検証について（政策検証市民委員会の設置目的の確認）	当日		
	政策検証資料について	当日		
	マニフェスト検証資料（実施計画ベース）	当日		
	門脇みつひろ 市政公約集「明日を創る8つの約束」	当日		
第3回 H24.6.5	「地域運営体」概要説明資料	事前		
	地域運営体 事業項目別平成22年度実施事業	事前		
	地域運営体 事業項目別平成23年度実施事業	事前		
	第2次仙北市行政改革大綱（実施計画書）	事前		
	第2回委員会の決定事項（検証結果一覧含む）	当日		
	仙北市地域運営体設置要綱	当日		
	一般行政職の級別職員数の状況	当日		
第4回	第3回委員会の決定事項（検証結果一覧含む）	当日		
	職員数に係る類似団体比較資料	当日		
	職員の平均給与月額等及び職員数の状況（H24年4月1日現在）	当日		
	人口1万人当たり職員数・職員に占める7級（部長）から4級（課長補佐）までの割合	当日		
	平成24年度観光関係補助金一覧	当日		
	第2回～第3回委員会までの会議録	当日		
第5回	第4回委員会の決定事項（検証結果一覧含む）	当日		
	第4回委員会の会議録	当日		
第6回	第5回委員会の決定事項（検証結果一覧含む）	当日		
	総合産業研究所取組実績及び成果等	当日		
	総合産業研究所の非常勤特別職及び一般職任期付職員の活動について	当日		
	第5回委員会の会議録	当日		
第7回	第6回委員会の決定事項（検証結果一覧含む）	当日		
	市立病院収支決算・診療所収支決算	当日		
	第6回委員会の会議録	当日		
第8回	第7回委員会の決定事項（検証結果一覧含む）	当日		
	第7回委員会の会議録	当日		
	仙北市政策検証結果報告書（案）	当日		
第9回	第8回委員会の決定事項（検証結果一覧含む）	当日		
	第8回委員会の会議録	当日		
	仙北市政策検証結果報告書（案）	当日		
第10回	第9回委員会の決定事項	当日		
	第9回委員会の会議録	当日		
	仙北市政策検証結果報告書（案）	当日		

第9回仙北市政策検証市民委員会の決定事項

- 日 時 平成24年9月27日（木） 13時30分～14時30分
- 会 場 仙北市役所田沢湖庁舎 第4・5会議室
- 出席者 委員 牧田委員長・大和田副委員長・佐々木委員・堺委員・田口委員・佐藤委員
草彌委員・橋本委員・西村委員 9名
- 市 佐藤総務部次長兼企画政策課長・田中総務部次長兼財政課長
運藤総務課長
- 事務局 企画政策課 戸澤参事・大澤政策推進係長 5名

【決定事項】

1. 政策検証結果報告書の様式を決定。堺委員に作成していただいた総括事項は若干の内容追加（バイオマス関連）をすることで承認された。分野別総括（8分野）も堺委員に作成していただく。
2. 各委員からは自身が選ぶ3～4項目のアクションプランに関する感想を作成してもらい、10月10日（水）までに事務局に提出する。（※感想の様式等は問わない。400字～600字程度が目安だが増えるのは構わない、出来上がり次第事務局に連絡いただければもらいに行く。）事務局は全委員の感想が揃い次第報告書案を作成し、次回委員会前に事前配布する。
3. 次回の第10回委員会は、10月22日（月）午後1時30分から田沢湖庁舎とする。最終委員会とする予定。内容は結果報告書の最終確認とする。
4. 報告書完成後の流れについては、報告書を市長に提出し、議会全員協議会の場での報告については、事務局が議会事務局と協議し委員長に結果を報告する。
5. 委員報酬は次回の最終委員会終了後に一括支払いとさせていただきます。（口座振込）
※大変申し訳ありませんでした。
6. 会議録の公開に向けて、次回委員会までにこれまでの会議録や評価コメントについて各委員から今一度確認していただき、内容の修正等があれば事務局に連絡する。

(案)

仙北市政策検証 結果報告書

平成24年10月
仙北市政策検証市民委員会

目 次

1. 仙北市政策検証について	・ ・ ・ ・ ・ 1
2. これまでの経緯	・ ・ ・ ・ ・ 2
3. アクションプラン検証一覧	・ ・ ・ ・ ・ 3
4. 政策検証の総括	・ ・ ・ ・ ・ 4
5. 政策別の総括	・ ・ ・ ・ ・ 6
6. 各アクションプランの評点とコメント	・ ・ ・ ・ ・ 8
7. 「政策検証市民委員会」各委員の見解等	・ ・ ・ ・ ・ 44
8. 仙北市政策検証市民委員会名簿	・ ・ ・ ・ ・

1. 仙北市政策検証について

仙北市では、門脇市長のマニフェストとして掲げた「明日を創る8つの約束」に基づき、それぞれのアクションプランに沿った各種事業を推進しており、平成25年度に達成すべき目標として掲げた「達成目標とする指標」の実現に向け様々な取り組みを実施しています。

市では、マニフェスト(アクションプラン)関連事業を、市総合計画の実施計画に組み込むことで市の政策と位置付け、平成22年度から本格的に様々な取り組みを展開しながら現在に至っていますが、「達成目標とする指標」は平成25年度の達成目標であるため、今般、推進期間の前期にあたる平成22年度と23年度の2カ年について政策の検証を実施しました。

検証方法は、市が自ら評価する自己評価、自己評価の資料等を基に民間事業者による外部評価、市民による評価の3形態となっています。

【検証の自己評価・外部評価・市民評価】

- ・各種事業の進捗状況について現状の把握と課題の抽出を行い、取り組みの状況を下記の基準に基づき市が自ら自己評価を実施。
- ・外部の専門機関による検証も必要なことから、市外の民間事業者による独自の基準に基づく外部検証も実施。
- ・上記の自己評価と外部評価を基に、公募による市民等を含めた「仙北市政策検証市民委員会」を設置し、下記の基準に基づき検証を実施。

【仙北市政策検証市民委員会について】

自己評価と外部評価の結果を基に、市民の目線で政策を検証するための機関として「仙北市政策検証市民委員会」を平成24年5月に設置しました。委員会は各団体等から推薦された委員と公募委員による10名で構成されています。

検証の項目として、「明日を創る8つの約束」について総合的に検証し、政策実現のための40項目の「アクションプラン」については、「達成目標とする指標」の到達状況も含め、下記の基準に基づき各プラン単位での評価を実施しました。

これまで、5月15日の第1回委員会から10月22日の第10回委員会に至るまで、合計10回の委員会を開催し検証作業を行ってきました。

市民委員会評価基準

評価点	評価指標
5	必要な取り組みを実践し、具体的な成果が表れているもの
4	必要な取り組みを実践し、一定の成果が表れているもの
3	必要な取り組みを実践しているが、課題を抱え推進途上にあるもの
2	必要な取り組みを着手しているが、先行きが見えないもの
1	必要な取り組みを着手できていないもの

2. これまでの経緯

年月日	実施内容等
H24 4月	市による自己評価
5月	民間事業者による外部評価（一般財団法人秋田経済研究所）
5月15日	第1回仙北市政策検証市民委員会 （委嘱状交付、委員長・副委員長選任・今後の進め方確認）
5月22日	第2回仙北市政策検証市民委員会 （アクションプラン1・2・3・4の検証）
6月5日	第3回仙北市政策検証市民委員会 （アクションプラン21・22・23・24の検証）
6月21日	第4回仙北市政策検証市民委員会 （アクションプラン25・26・27の検証）
7月6日	第5回仙北市政策検証市民委員会 （委員長の交代、アクションプラン12・14・28・29・30の検証）
7月19日	第6回仙北市政策検証市民委員会 （アクションプラン5・6・7・8・9・10・11・13の検証）
8月3日	第7回仙北市政策検証市民委員会 （アクションプラン15・16・17・18・19・20の検証）
8月31日	第8回仙北市政策検証市民委員会 （アクションプラン31・32・33・34・35・36・37・38の検証）
9月27日	第9回仙北市政策検証市民委員会 （最終報告書の作成）
10月22日	第10回仙北市政策検証市民委員会 （最終報告書の確認）

3. アクションプラン検証一覧(平成22年度・23年度の取り組みから)

区分	No.	項目	主管課	H25に目標とする指標	最新値	自己評価	外部評価	市民評価	
①私が仙北市のエンジンになります	1	市行政総点検	企画政策課	新たな政策・事業提案数累計200件以上	124件	3	C	3	
	2	将来ビジョン検討部会設置	企画政策課		—	3	B	3.38	
	3	市民要望事業の達成度調査	企画政策課	まちづくりミーティング累計40回	33回	4	D	2.38	
	4	将来ビジョン発表	企画政策課		—	3	B	3.38	
②4年間で所得10%以上増やします	5	総合産業研究所の新設	総合産業研究所	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 総合産業研究所成果件数(新規)累計60件 農業生産額70.2億円→75億円 食品生産額18.3億円→20億円	173万円 26件 — 14.8億円	2	C	2	
	6	食育と地消運動の展開	総合産業研究所	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 農業生産額70.2億円→75億円	173万円 —	3	B	3	
	7	市内と市外を結ぶ産業プラットホーム事業	商工課	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 小売業商品販売額308.2億円→315億円	173万円 —	2	C	2	
	8	食品加工産業群の育成	総合産業研究所	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 農業生産額70.2億円→75億円 食品生産額18.3億円→20億円 小売業商品販売額308.2億円→315億円	173万円 — 14.8億円 —	2	D	1.95	
	9	観光産業拠点特別区の創設	観光課	「角館」「田沢湖畔」「乳頭・高原・玉川・水沢」を観光産業拠点特別区として重点的に施策を展開する。	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 観光客入り込み数525万人→600万人 宿泊者数66万人80万人	173万円 546万人 68万人	4	B	3.25
	10	産業・職人マイスター制度の創設	商工課	樽細工、イタヤ細工等の伝統工芸品の他、わら細工やツル細工など消滅の恐れのある技法をマイスター制度を創設して後継者に伝える	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 事業所従事者数13,363人→13,500人	173万円 13,038人	3	B	3.05
	11	中小企業振興条例の制定・支援の重層化	商工課	条例制定により、産業振興方針の明確化、施策の具現化が図られ、行政姿勢の連続性が担保される。	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 集中企業訪問事業(新規)累計120社 事業所従事者数13,363人→13,500人	173万円 26社 13,038人	3	C	3
	12	芸術文化産業(音楽・美術・映像等)の育成	企画政策課	芸術文化産業の振興により、地域の活性化とともに市の新成人の可能性も探る。	市民1人当たり分配所得172万円→190万円	173万円	3	B	2.61
	13	市・観光協会・地域団体との連携推進	観光課	三観光協会の統一を目標に、これに向けた連携強化のための組織づくりや連携事業を実施する。	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 観光客入り込み数525万人→600万人 宿泊者数66万人80万人	173万円 546万人 68万人	4	B	3.5
	14	新エネルギー・新素材産業への参入	企画政策課	太陽光、風力、バイオマス等の新エネルギーを活用した環境型グリーン産業を育成する。	市民1人当たり分配所得172万円→190万円 集中企業訪問事業(新規)累計120社	173万円 26社	2	C	1.5
③医療を再生し福祉を充実します	15	医師確保事業(テナントドクターズ・奨学金)	医療局	医師不足を解消するため、テナントドクターズ制度や奨学金制度を設け医師確保を図る。	医師数12人→15人(人口1万人あたり) 看護師数等121人→123人(人口1万人あたり) 医療従事者奨学金制度(新規)月額上限20万円	14.6人 129.9人 20万円	3	B	2.25
	16	角館病院改築・新医療機器事業	角館総合病院	老朽化した角館総合病院の新築と新医療機器を整備する。	医師数12人→15人(人口1万人あたり) 看護師数等121人→123人(人口1万人あたり)	14.6人 129.9人	4	B	2.5
	17	田沢湖病院救急医療再開対策事業	田沢湖病院	救急医療体制を再開するために医師確保を進める。	医師数12人→15人(人口1万人あたり) 看護師数等121人→123人(人口1万人あたり)	14.6人 129.9人	2	D	2
	18	「癒しと医療」まちづくり事業	観光課	温泉群、温泉施設と医療、福祉の促進し、「癒しと医療」のまちづくりを進める。	温泉療法医1人→2人 温泉療法士(新規)20人	4人 20人	4	A	2.28
	19	小規模多機能型福祉施設整備促進事業	長寿支援課	高齢者が、「通所・訪問・泊まり」の3つのサービスを24時間受けられることができる小規模多機能型福祉施設の整備を進める。 空き家、空き店舗へ改装費補助、生活の横に見守る福祉施設を促進。		—	4	B	3.57
	20	障害者の職場づくり推進事業	社会福祉課	職場づくりを推進するための委員会を設置し、障がい者の就労に結び付く制度や環境づくりを検討する。		—	4	D	2.85
④市民分権を進めます	21	地域運営体の設置	企画政策課	昭和の合併前の9地域に、地域の特性を活かした自主的な活動により、所得や生活基盤の向上を図るため地域運営体を組織する。	9地域運営体の立ち上げ	9地域	4	B	3.94
	22	市民サポートセンターの開設	企画政策課	市内10箇所に市民サポートセンターを設置し、窓口業務、産業振興、地域運営体のサポートなど地域の活動拠点とする。	9地域運営体の立ち上げ	9地域	3	D	2.56
	23	地域運営体予算の確保(予算編成優先度No.1)	企画政策課	一つの地域運営体に年間500万円を上限とする交付金予算を確保する。	地域事業予算枠(新規)4,500万円程度	4,500万円	4	B	3.94
	24	行政組織の再編	企画政策課	新たな政策や事業を展開するにあたり、より効果的・効率的な事務の執行ができる組織のあり方を検討のうえ再編する。		—	4	C	2.29
⑤徹底的な行財政改革を断行します	25	市役所建設の凍結・再検討	企画政策課	構想段階である市役所の建設について再検討を行う。	行財政改革指標 義務的経費48.2%→45% 投資的経費19.3%→17% 実質公債費比率19.5%→17% 1人当市借金額85万円→70万円	50.8% 9.4% 19.2% 83万円	3	C	2.08
	26	新行財政改革チームの設置	企画政策課	行政組織の再編の一環として、行財政改革を推進するための専任部署を立ち上げ、実効性確保及び進捗状況の情報開示を行う。	行財政改革指標 義務的経費48.2%→45% 投資的経費19.3%→17% 実質公債費比率19.5%→17% 1人当市借金額85万円→70万円	50.8% 9.4% 19.2% 83万円	4	C	3
	27	職員給与・特別職報酬等の見直し	総務課	職員給与・特別職報酬の見直しを行う。	行財政改革指標 義務的経費48.2%→45% 投資的経費19.3%→17% 実質公債費比率19.5%→17% 1人当市借金額85万円→70万円	50.8% 9.4% 19.2% 83万円	2	D	1.91
	28	民間等からの任期付き職員採用	総務課	民間のノウハウを活用するため、任期付き職員を採用する。このための関係条例の整備を進める。	市民満足度カウンター(新規)70% 市民意識調査(新規)4回(毎年1回)	19.1% 1回	4	D	2.37
	29	物品調達・業務委託の市内発注制度の新設	入札契約室	市内業者の受注機会を増やし、市内経済の活性化を図るため受注制度を確立する。	市内物品調達・業務委託制度(新規)90%	物品 74%	4	C	3.11
	30	全市高速ブロードバンド化事業	総合情報センター	全市光ファイバーによる高速ブロードバンド化を促進する。	市民満足度カウンター(新規)70% 市民意識調査(新規)4回(毎年1回)	19.1% 1回	3	D	3.16
⑥次世代の育成に力を注ぎます	31	少子化対策・子育てプロジェクトチーム活動	子育て推進課	男女の出会い、安心して子どもを産み育てる環境づくりを整えるための活動を行う。	出生数6人→7人(人口1千人あたり)	5人	2	D	2
	32	読書環境再編計画策定	学習資料館	市民の読書環境を整えるため読書環境再編計画を策定する。小中学校の図書増冊や各図書館、公民館等とのネットワークづくりに取り組む。	読書環境再編計画策定(新規)1校100冊増	配布済	4	A	3.14
	33	総合型地域スポーツクラブの育成	スポーツ振興課	市内全域で総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、スポーツの振興と市民がスポーツを親しむ環境を整える。	市民スポーツ活動参加事業(新規)全市民の90%以上	45%	3	B	3.57
	34	県立高校市民会議の設置	企画政策課	県立高校の再編について、高校教育のあり方を多面的に検討するため、県立高校市民検討会議を設置する。		—	4	A	3.42
	35	仙北キャンパス開校促進活動	企画振興課	大学等の分校を誘致することにより、地域の活性化や地域経済を潤す。	仙北キャンパス開校数(新規)1校 各学習講座受講者数6,900人→8,000人 伝承ものづくり講座(新規)50回	0校 7,302人 24回	2	D	1.78
⑦生活を守る仕組みを強化します	36	暮らし支援事業(相談窓口・生活資金貸付)	社会福祉課	市民の相談窓口や高齢者等の生活資金貸付の充実を図る。	暮らしの相談窓口開設(新規)9ヶ所	7ヶ所	3	B	3
	37	市民声かけ運動の展開	企画政策課	市民がお互いに思いやる気持ちを持つために、市民声かけ運動を展開する。		—	3	C	2
	38	ライフライン総点検事業	建設課 都市整備課 環境防災課 等	上下水道等の整備を進めるとともに、大雨や大雪などの災害を未然に防ぐ仕組みを整える。	上水道・簡易水道普及率70.6%→75% 下水道普及率(公共)32.2%→35% 消防団員数650人→720人	74.2% 35.3% 612人	4	B	2.64
⑧4年間で実現します	39	公約検証委員会の設置・進捗状況の公表	企画政策課	市民や有識者による公約検証委員会を設置し、達成度の検証、管理を行う。	※公約検証委員会が策定	—	3	B	—
	40	公約実現のための行程表作成	企画政策課	公約検証委員会による工程表を作成する。	※公約検証委員会が策定	—	3	C	—

4. 政策検証の総括

仙北市政策検証委員会は、平成24年5月15日に第1回委員会開催以来、9回の委員会を開催し、延40時間に渡る真剣な検証を行いました。

当初の委員会では、市長の公約を検証するのか、市の政策を検証するのかの議論が行われ、市当局の見解を求めました。その結果、門脇市長のマニフェストは、市が政策として実施することに決定しているため、仙北市アクションプランの平成22・23年分の事業実績の検証を行うこととなりました。

具体的検証作業には困難な事がいくつかありました。検証項目が市政全般の中に散りばめられており、全体像が理解できないと検証が困難であることでした。最初の項目を検証するだけで2時間以上もかかったために、40項目を検証するための時間を想像すると、仕事を持ちながらの検証は不可能に近いと感じました。更に、各項目に関する資料の的確な（質・量）提供が行われず、事前配布の約束も守られませんでした。そのため、実質資料なしの状態での検証を強いられました。そのため、委員会としては、各項目事に専門知識を有する委員の質問を重視しながら検証を行いました。結局9回の委員会を開催し、述べ40時間の委員会開催で、各委員の方々には本当にご難儀をお掛けいたしました。本日ここに検証結果を公表するに至りました。

政策検証の総括としては、事前に行われてきた部内での自己評価・秋田経済研究所による外部評価よりも相当厳しい結果となりました。

その理由として、仙北市アクションプランの完成度が低く、実現性及び実効性に矛盾を抱えているものが多々あることが挙げられます。

例えば、「医療を再生し福祉を充実します」の中にある「角館病院の改築・新医療機器事業」、「田沢湖病院救急医療再開事業」の問題では、仙北市の人口が10年後には25,000人近くまで減少することが懸念されているにもかかわらず、医療施設の一元化や実現不可能な項目を無視し、多額な借金（角館病院の改築約40億円）を行なっていくシステムは理解できません。市民が安心できる仙北市の総合医療政策を策定してから、個々の事業に取り組むべきではないかとの指摘がありました。

「徹底的な行財政改革を断行します」の中の「市役所建設の凍結・再検討」の項目では、角館庁舎の改築が近々実施の検討を行なっているそうですが、これも市庁舎建

設総合計画の策定が先決と思います。分庁舎方式か支所方式を決定したうえでの角館庁舎の改築が当然だと理解いたします。

欠陥事業であることが判明したバイオマス発電事業に関する対応も、とても市民として理解できるものではありません。早期に廃止を含めた判断が必要です。

更に「4年間で所得10%以上増やします」項目の中にある「総合産業研究所」は、所得を増やすための玉手箱とまで言われた組織の新設でしたが、見事に期待を裏切っていました。表面的に羅列した事業の数々は、とても事業評価として満足の得られる

ものではありません。特に発足に当たり、鳴り物入りで誕生した所長と専門員が2年契約であったものが契約半ば（1年あまり）で事業を去っていったことは誠に残念でたまりません。

その他、種々の事業に関する評価は本文内に記述してありますのでここでは触れませんが、最後に感想として、市長が進めてきた仙北市アクションプランに過ちの項目や不必要な項目はありませんでした。しかしながら、平成22・23年度の事業実績は、はかばかしいものではありません。その理由を推定すると、アクションプランを計画した市長と、実施する部隊としての市職員との間に意思疎通の不足さを感じます。担当各課の職員との質疑を通じて、もっと実行するための各部署との話し合いの強化の必要性を痛感しました。

特に市長が積極的に進めている対話集会で、要望された各種の意見に対し、やれる事・やれない事の取舍選択をはっきり言う事が必要であると感じます。それらの事項を整理することにより、実施計画がアクションプランから離れても、より良き結果となれば住民の理解も得られると思います。

住民より圧倒的支持を得て当選された門脇市長には、今回指摘された政策評価を参考にし、今後共、より良い市政を住民のために実現していただくことを心より祈願いたします。政策検証の総括といたします。

5. 政策別の総括

政策1 私が仙北市のエンジンになります。

市行政総点検・将来ビジョン検討部会の設置・市民要望事業の達成度調査・将来ビジョン発表の4事業で構成されていますが、いずれの事業も評価は充分とはいえないとの見解となりました。市行政総点検で新たな政策が200件以上提案され、タウンミーティングが33回開催されているそうですが、提案から実施計画までなされた事業があったのか、タウンミーティングの結果どのような改善がなされたか不明である。

政策2 4年間で所得を10%以上増やします。

「所得10%以上増やします」という壮大な計画、市民の皆さんの期待が特に強いのがこの事業です。この項目の2年間の総括は、残念なことに市民に所得向上の欠片も示せませんでした。特に最大の目玉事業の「総合産業研究所」が、想定通りの機能を発揮できなかった事が大きいと思います。更に、食品加工・プラットホーム・新エネルギー等の事業が低評価でした。ただ観光連盟の発足は今後の観光産業の発展に寄与する可能性があると高評価でした。

政策3 医療を再生し福祉を充実します。

この事業は、仙北市の安心安全な医療を、少子高齢化の中でどのようにして実施していくかが最大のテーマです。医師の確保・角館病院の改築・田沢湖病院の救急医療等、市民の関心は人一倍強い項目です。様々な議論を得て医師の確保・角館病院の改築・田沢湖病院の救急医療等が実施されようとしています。本委員会での評価は平均で2.5点と特に低くなりました。理由は、個別対応に終始し、10年20年先の仙北市の医療福祉政策のビジョンが見えないことでした。行政は出来ないことは出来ない・これは実施できると、市民に明確にメッセージを伝えるべきです。

政策4 市民分権を進めます。

地域運営体を設置し、市民の自発的活動を行政が支援し地域の活性化を図るのが目的の事業です。地域運営体の設置は概ね高評価でありました。ただし、市民サポートセンターの設置や運営方法等には異論が相次ぎました。運営方法を改善し、本来の目的に向かって進んでもらいたい。行政組織の再編は評価不能です。

政策5 徹底的な行財政改革を断行します。

市役所の建設・給与見直し・民間職員の採用・市内発注の各事業は評価が別れました。市内発注は改善されつつあることは評価されましたが、市役所の建設については、総合計画が発表されていないのに、角館庁舎の建設が先行されそうな情勢に憤りを感じました。分庁舎方式か本庁舎方式を取るかは2年間もの議論の機会があったのに凍結のままでは職務怠慢と言われてしまいます。更に頭でっかちの行政（肩書きの連発）による行政コストの増加が懸念されました。

政策6 次世代の育成に力を注ぎます。

少子化の流れの中での大切な事業です。特に高校再編の中で一定の成果が得られつつあることは高評価でした。但し経過の公表が不完全であるとの指摘もありました。スポーツクラブの育成も一定程度の評価がありましたが、少子化PTの活動や大学キャンパスの誘致については結果が出ていないのでほとんど評価されませんでした。

政策7 生活を守る仕組みを強化します。

ライフラインの整備は工事を行うことが目的ではなく、利用者がより利用しやすくする工夫が必要であるとの指摘がなされました。事業規模が大きい事業なので、今後の負担が大きくなるよう要望します。暮らし支援の相談窓口の設置や市民声かけ運動は即日実施可能なので、もっと頑張ってもらいたいとの意見でした。

政策8 4年間で実現します。

公約検証委員会の設置により、私たち委員に任命された10名は、延40時間にも渡る真剣な検証を行ってきました。今回中間報告を当局・市民に発表しますが、評価は報告書を読んだ市民の方々に委ねたいと存じます。残りの2年間も今回の経験を活かし「4年間で実施します」の検証を行っていきます。

6. 各アクションプランの評点とコメント

約束①「私が仙北市のエンジンになります」

アクションプラン1【市行政総点検】

H24/5/22 第2回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	3	スプリングレビュー、サマーレビューなどを実施している点は評価するが、それが実際にどのように行政運営に反映されたのかが見えない。必要な取り組みは実践しているが推進途上という評価。
大和田副委員長	3	職員全体でこのことに意識を向けて取り組みを進めていることを評価したい。
佐々木委員	3	今の段階では、評価委員会を立ち上げて総点検を実施しているのは評価できる。意識改革をしようとしているが、どちらに向いているのかが問題である。あくまでも公僕であるとの意識をもって市民第一に実践して頂きたい。
堺委員	3	2年間過ごしてきて将来ビジョンが見えない、将来どこに着地したいかをもう少し明確にすれば目標に向かっていくだろう。地域センターが将来どうなるのかとか地域センターに配属されれば俺はこんなところだとかと言っている職員がいるぐらいなので、立場的にどうなるかというのを早めに将来的なことがキッチリわかってそれに向かっていくという目標があればいいと思う。
牧田委員	3	意識改革というが実践が伴わないと意識改革とは評価できない。それを早くスピード感を持った行動で市民の声を実現させる、これは全てに共通することとして提案したい。
佐藤委員	3	124件の提案が出ているところは評価したい。効果的効率的な組織体制の整備という意味では、適材適所・人員配置というところまで考えるともう少し工夫というか、利害関係もあるとは思いますがプロフェッショナルな職員を養成していくところまで期待したい。
西村委員	4	職員の末端まで意識改革するための勉強会を最低でも1年に2・3回やって意識改革をしなければダメである。全体として意識改革するための勉強会をやるべきである。私の会社では年に2回ぐらい個人面談をするがその前にリーダーとの面談もさせて個人面談している。そうして念仏のように職員に言って教えないと意識改革はしない。立場上嫌だとは思いますが管理職は徹底してそれが仕事という意識でやらないと。意識改革のための勉強会、燃えてくるような職員を創るための勉強会をぜひやってほしい。
草薙委員	2	今のところ評価しがたい。仙北市になって郷土に色々な郷土史・歴史がある。これを問うても答えが返ってこないのが現実の姿である。職員は最低限のことは知っておくべき。

※平均評点 3

アクションプラン2【将来ビジョン検討部会設置】

H24/5/22 第2回委員会

アクションプラン4【将来ビジョン発表】

H24/5/22 第2回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	4	将来ビジョン策定委員会が設置され、報告書という成果物がでてるので、当初の目的は達成したと判断する。
大和田副委員長	3	将来ビジョン策定委員会が提案して公表したがこれはどこかで決定したものではない。だから策定したものに基づいてこれから大いに市民の意見を反映させ、行政マンの意見も反映させ、本当に仙北市民が自分達のビジョンだと思えるものに練り上げていくという意味でこれが策定出来たということの評価する。
佐々木委員	3	将来ビジョン検討部会が設置され、策定委員会で仙北市の将来ビジョンが策定されたことは評価したい。今後市民も将来ビジョンを自分たちの将来像だと認識できるよう情報開示して頂きたい。
堺委員	3	約束①の項目の予算規模のうち7割を超えるぐらいの予算をこの委員会に使用しておりそれだけ期待度が高かったと思う。これだけの金をかける会議は相当重要であり当然結果についても色々なかたちで実施していかなければいけないと思うので、この金のわりには2から3の間の評価になる。委員には責任はないが行政としてこれだけの予算を出した以上はもう少ししっかりした結果を出していただければならないと思う。将来に期待値を加味しての評価。
牧田委員	3	特になし
佐藤委員	3	ビジョンを市民に公表したところまではいいが、意見も求めるところはこれからになると思うので評価しづらいところはある。作ったところまでを考えると限りなく4にしたいところではあるが。
西村委員	3	特になし
草薨委員	2	さっぱり進んでいないというのが現実。色々なところで討論され審議されているが、それが実質的に市民の目で見えるところまで来ているかというのが疑問に思う。

※平均評点 3.38

アクションプラン3【市民要望事業の達成度調査】

H24/5/22 第2回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	3	着手して取り組みはなされているが、課題を抱え推進途上にあるという評価。
大和田副委員長	3	まちづくりミーティングをやる、市長自ら職員も出かけていく、そして市民と一緒に考えるという場を作ったことは評価したいと思う。そこに反映されるものは本当に切実な要求であったり、あるいはわがままであったり色々なものがあると思う。それをそのまま実行出来る訳ではないと思うが、そういう場を設けるということにも意味があると思う。
佐々木委員	2	タウンミーティングを開催したということは評価したいが、参加者が非常に少ない。今後の課題とすべき。
堺委員	2	やったという結果だけは確かにあると思うが、中身と人数その他において非常に不満が残るので、着手出来ているが先行きが見えないという評価。
牧田委員	2	一番肝心の市民要望事業なので、実のある市民との連携で政策を作っていく、仙北市のエンジンになりますということからすれば、相当の工夫もしなければならぬし人材も投入しながらやらなければならないという点で今一つ。
佐藤委員	3	事業内容としては達成度調査・意識調査までしか書かれていないので、調査という意味では調査は出来ている。
西村委員	2	市民の政治に対する姿勢、外部評価は民意も相当低いと思っている。
草薨委員	2	特になし

※平均評点 2.38

約束②「4年間で所得10%以上増やします」

アクションプラン5【総合産業研究所の新設】

H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	2	総合産業研究所はかなり期待されていて商品開発まで手掛けるところなので難しい面があると思う。当初の予定どおりにっていない部分があり、人材の確保が一番難しいのではないか。
田口委員	2	評価する材料が市から全て提示されていないという印象。市からは様々な取り組みをしているとの説明だったが、堺委員からの実態の話と差が大き過ぎる。研究所は所得を産む玉手箱とのキャッチフレーズだったが、宝物が入っていると思って蓋を開けてみたら白い煙がでてきたような印象。
堺委員	1	22年度と23年度にどういうことをやったということを、せっかく来られた副市長が、このような適当な評価でごまかさないでしっかりとした評価で総合産業研究所を建て直すことをしていただきたい。実際の数字は悲惨、大変なことをやっている、アンテナショップは恥ずかしくてとてもいけないような感じ。
佐々木委員	1.5	総合産業研究所を立ち上げて目玉としてやろうという門脇市長の意気は買うが実績は惨憺たる状況である。
大和田副委員長	2	新設して動き始めたことは評価したいが、商品が商品として売れるところまでやるという覚悟をしていただくこの2年間の痛い経験だったのではないか。
牧田委員長	2	もう2年経ったからきっちり総括をして次に何をどう打ち出していくのかということが出て来ないと、真っ黒なままに4年間経ってしまいそうな感じがして不安。
草薨委員	2	なし
橋本委員	3	地域運営体で商品開発や加工食品のコンテスト等をやっており、中華ちまきは軌道に乗っている。研究所に教えてもらい順調にしている。失敗を恐れずに2年間本腰を入れて頑張ってもらえた。
西村委員	2	総合産業研究所の新設は良いことだと期待していたが全く考え方がずれている。民間の方の考えと市職員の考えのギャップがあまりに大きすぎた。外から知恵を借りれば良いと思ったが無責任な人を雇ってしまった。
藤村委員	2.5	なし

※平均評点 2

アクションプラン6【食育と地消運動の展開】

H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	3	学校給食や保育所等の地場農産物利用拡大が実際に図れている。
田口委員	4	なし
堺委員	3	なし
佐々木委員	3	旧町村で食育をやっていてかなりばらつきがあったが協議会を作っており、実際はJAとも関係性が深いのもう少し上手くやればと思う。
大和田副委員長	3	着手出来たことはとても期待している。
牧田委員長	3	取り組みが始まっているということの評価する。
草薨委員	3	生産者も販売者も研究所もお互いに足元をじっくり見るべきである。
橋本委員	3	なし
西村委員	2	地元野菜の使用率が上がったというが、研究所が出来て取り組んだと言う前にもう30年も前に気がつかないといけない。
藤村委員	3	なし

※平均評点 3

アクションプラン7【市内と市外を結ぶ産業プラットホーム事業】 H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	2	企業誘致が厳しい現状だと思うが、震災があり状況が変わってきた面もあるので、今後のこの事業の進め方は一から見直してやる必要があると思う。クリーンエネルギーや新エネルギーに向けたり農業法人であったり方向性を変えていく必要はあるのではないかな。
田口委員	2	制度を利用した侘桜は市内の事業者であり、本来の目的である市外からの企業誘致がない。企業誘致には戦略的な取り組みが必要だと思う。各産業に従事する事業者の知恵を借りることも必要ではないかな。
堺委員	2	この項目は4年間で所得を10%以上増やしますという大命題の中に入っている。これで所得10%目指すための事業とすれば侘桜1件だけというのは評価としてはあまり良くない、副市長が来たのだから今年3つぐらい誘致企業を連れて来てもらえればありがたい。
佐々木委員	2	企業誘致がほとんど0に近いこと、本来であれば市民一人当たりの所得172万円の10%アップの190万円だが200万円の目標にすべきである。企業誘致は所得がアップする効果が一男番高いが現状では厳しい環境にある。地場産業の底上げも所得アップに大事である。
大和田副委員長	2	市長が精力的にトップセールスに回っているが、秋田県全体で企業撤退が続いている時に企業を誘致することがどれほど大変なことかはわかるのだが、足を運んで得た情報で仙北市で何をどのように整備すれば可能性が出て来るのかを見極める必要があるのではないかな、そういう作業が必要ではないかな。既存の事業所も大変苦戦しているが、既存中小業者もどうやってこの困難を乗り越えるのかということの連携も問われている時代に今直面していると思う。
牧田委員長	2	何を特徴付けて誘致するか、気候的な条件も含めて、トップセールスでそれにかけるのはわかるが、これに期待するのは難しいという感じ。
草薙委員	2	仙北市の中に企業誘致の人脈がないのか、色々な手法があると思うがやはり人と人とのつながりの中で結ばれるのではないかなと思う。仙北市から中央に出ている人が一杯いるのでまだ夢があるのではないかなと思う。
橋本委員	2	もともと何十年も前から企業が来ることによって雇用の場が生まれ少子化対策にもなる。とにかく今は県でも少子化対策と言うが仕事がないから子供達が生まれえない。この件についてはもう少し頑張って努力してもらいたい。
西村委員	2	企業誘致は、国内からも逃げていく時に秋田県の雪の降るところに企業が来るか、それだけの安い賃金があるか、条件はどうかというところかなり難しいと思う。それよりも今現存している色々なホテル業や製造業をやっている人達にもう少し何か、現在ある企業の雇用にいかに守るかというための施策・知恵・物心両方で応援して、これ以上ここの雇いを減らさないということのほう得策なような気がする。
藤村委員	2	誘致企業が見込めないのであれば首都圏の企業のノウハウや技術を地元企業に伝授して、そちらの方向にシフトしたほうが一番早いと思う。

※平均評点 2

アクションプラン8【食品加工産業群の育成】

H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	2	2年間で課題が見えてきたことは先行きに期待できる。行政として民間が出来ない部分をやっていただくことで、販路拡大やブランド化等に期待される場所だが、結果としてここまではまだ成果が上がっていない。
田口委員	2	なし
堺委員	1	なし
佐々木委員	1	総合産業研究所の色々な取り組みはほぼ全滅である。販路については秋田県及びJAのアンテナショップとの提携も視野に入れ、検討すべきではないか。
大和田副委員長	2	総合産業研究所の色々な取り組みの全てに言えることだが、作れば良い、やってみたいからやってみるのではなく、どうやって作ったものを売なのかヒットさせるのかというマーケティングをきちんと24年度以降はするべきだろう。市民の先進例を取り上げながら、その中で仙北市からこれを打ち出すという覚悟や戦略を持って臨むというリーダーシップを総合産業研究所がとってほしい。一緒に売って歩く、評価も聞いて歩く、汗を流して一緒に農家さんと歩く、加工業者と一緒に歩くというようなことも含めて是非検討してほしい。
牧田委員長	2	民間や個人でも結構色々な商品になりそうなものを作っている。マーケティングの問題は、首都圏の親戚とか商店会とか色々あるが、それだけではなく、それぞれの仕事場で現場で東京に出たり仙台等に出たりして色々な努力をして、それを汲みつぶして方針化していくということが今必要ではないか。
草薙委員	2	何となく中途半端である。
橋本委員	3	なし
西村委員	2	自分達で作った商品が売れないで育成なんて出来るのか、指導力ゼロだと思う。商売をやっている人は研究所にそんなに期待しているのか疑問。
藤村委員	2.5	なし

※平均評点 1.95

アクションプラン9【観光産業拠点特別区の創設】

H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	3.5	仙北市という名称になったことで埋もれてしまった田沢湖や角館のブランドを活かしていこうということは非常に良い方向に進んでいるように思う。
田口委員	2	特別区の創設に意味があるように思えない。個人の観光に変わってきているので目立つような観光施設だけではなく、農家民宿のようにそこに住んでいる人たちの生活を直接的に感じられるようなことが大切だと思う。江戸時代あるいは昭和の古い街並みがなくなっている現状があるので、そういった素材も、田沢湖や角館の武家屋敷以外にも、ごく当たり前の昭和の生活なども残していくことが、将来の観光の資源になっていくのではないかと考える。
堺委員	3	非常に良くやっているが、食事等を含めて市外産のものが多くということに対して、観光と商工が同じ場所にいるのだから早く連携してやってほしい。
佐々木委員	4	全国的にも有名なブランド化は評価できる。景観もきちんと整備することが観光客に対しての最低限の礼儀である。あとは真心対応が大事である。仙北市産の農畜産物・特産品を各ホテル・農家民宿とタイアップし将来的には物産公社化が望ましい。
大和田副委員長	3	潜在能力を発揮するのはこれからということでその緒に就いたと思う。
牧田委員長	3	なし
草薨委員	3	やれば出来る。ただ手あぐらをかいているばかりではなく、自分でやっていくことで道が開けていくと考える。
橋本委員	3	なし
西村委員	4	まだ課題はたくさんあるので、これから色々な施策を行っていく必要があると思うが、その一つとして、市内の宿泊施設を活用して大学の合宿などを誘致していく事業は一定の成果があるようである。これをもっとブラッシュアップして欲しい。市内には色々な合宿や大きな大会などを誘致出来る宿泊施設があるので、それを活かすべくスポーツツーリズムに力を入れていくべきだと思う。
藤村委員	4	なし

※平均評点 3.25

アクションプラン10【産業・職人マイスター制度の創設】 H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	3.5	仙北市の貴重な資源として伝統工芸品や素晴らしい文化があり、全てを作るのは人材、人が作るものなのでそこにマイスターというかたちで光を当てた制度自体は素晴らしい制度だと思う。
田口委員	3	どの程度の効果があるのか疑問を感じる。取り組みはされているが今後どういふかたちで所得を増やすことに繋がっていくのか確認出来ない。
堺委員	2	売り上げが下がっている訳なので、マイスターを制定することだけが良いとなると厳しい。命題の4年間で所得10%以上増やしますというのが非常に気になる。
佐々木委員	3	マイスターの創設が所得10%アップにつながるか疑問であるが、今後職人技の習得が困難で消滅を防ぐためにも重要である。
大和田副委員長	3	これで直接的に収入がどうアップするかということではなく、仙北市における色々なアイテムがとても光を放っていくことで仙北市全体がもう一つ展開していけるという意味の一つではないか、これからの活かしようだと思う。
牧田委員長	3.5	火振りかまくらの俵とかを作る資材は、これだけ減反になって空いた田んぼが一杯出来て、そういうものを使った何らかのものが作られることによって活かせるのではないか、観光にも活かせるのではないか、時代は変わっても心は変わらないこと、それを活かす方法はあるような気がする。一緒に考えていきたい。
草薨委員	3	マイスターについてはやるべきだしやっつけていかなければいけない。
橋本委員	3	ツル細工など素晴らしい技術を持っている人達がいるが売る気がないのが残念。しかし色々育成していく必要があると思う。
西村委員	3.5	今作っている人達もマイスターの人達もなかなかデザインのことまではいかず苦心しているし、新商品のための開発、開発された商品に光を当てる、それを売るためにやれば売り上げはすぐに上がると思う。取り組もうとしていることを評価する。
藤村委員	3	マイスター制度の創設は良いことで、技術というのは対価としては限りない何百万・何千万に値する価値だと思う。本当の技術を継承出来る人に伝授してもらいたい。

※平均評点 3.05

アクションプラン11【中小企業振興条例の制定・支援の重層化】

H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	3	今後の課題がまだまだたくさんあるが、まずは条例を制定出来たということで評価する。
田口委員	4	一定の成果が出ている。
堺委員	2	条例を制定することに対しては非常に市として熱心だったが、条例を制定したのに何かやるという話しは一つも出て来ない。何かやらないと所得10%以上は出て来ないのではないか。
佐々木委員	3	産業振興基本条例を作ったことは評価出来る。いかに課題を今後どうするのが一番重要。
大和田副委員長	3	この条例があるからこんなこともあんなことも可能だという可能性をもっと発信すべきだと思う。
牧田委員長	3	条例が出来たことを評価。
草薙委員	3	なし
橋本委員	3	こういうご時世だから何とか活用出来るようにもう少しPRしながら使ってほしい。
西村委員	3	震災後の利子補給もかなりの金額が投入され、他市町村に先駆けてやったというスピード感は良いと思う。注意深く手厚い指導を徹底してやってほしい。金を出して終わりではなくその後どうなっているか、どういう取り組みをしているかを商工課はある意味でコンサルタント業みたいなことをしっかり勉強したほうが良い。施策や資金面だけでなくコンサルタントみたいなことで親身になって市役所が先頭になってやるべき。産業育成のために将来金になることに金を使うべきだと思う。
藤村委員	3	条例の制定はなされたが、何をやるのかは何も見えていないのでそこを早急にしてもらいたい。

※平均評点 3

委員名	評点	コメント
草薨委員	2	姿勢として表題によるものをしっかり検証し、我々は何をしていくべきか何をさせるべきかということを中心にきちんとしてきた中での取り組みでもらいたい。色々なところに金はかけているが、重要な文化財でありながらも陽の当たらない文化財があるので良く精査して、色々な方々も団体もあるのでそちらのご意見も踏襲しながら進めていくようにしなければならない。ただやっていますではなくてこれからはきちんとした組み方をしていただきたい。
橋本委員	3	地域に残っている色々な文化、ただ地域にばかり任せないでこちらから出向いて行って、ただある団体に任せているだけでなく行政として掘り下げていくべきではないか。
西村委員	4	芸術文化はわらび座だけでなく突発的なことや色々なことをやることによって人は交流する。食材も売れるし色々な経済交流がある、スポーツや文化もそうだし、それで飯を食っている町もあるぐらい、かなりの活性化になっている部分もある。これから市が、芸術・文化・体育の色々なイベントをやることによって、仙北市は特に宿泊その他の受け入れ態勢のできるまちなので、力を入れて企画力のある人、民間と一緒にやれるような人材を養成してもらいたい。特に人を集めて賑やかに色々なことをやるのがこの地域の一つの特徴だと思う。これからは一緒に色々なことに各種団体と取り組みながら、市側としては積極的にそれにご協力いただければ企画も含めてやっていただきたい。
藤村委員	3	もっと積極的に市の参入というか関連の各種団体との会話を進めながら積極的に進めてほしい
佐藤委員	3	わらび座を中心として、伝統的建造物等も含めて今まであるものは有効に活用しているという感じはする。非常に難しいことだが新歳入の可能性を探るということはこれからの期待したい。
田口委員	1.5	やった実績としては、市が中心となってやった訳ではなく他のまちづくりの団体が主体的にやったものが多い。市としてどういう戦略を持って芸術文化を使って所得を上げていくのかという戦略、まだ検討していないこれからということなので、必要な取り組みにまだ着手できていないということかなと思う。
堺委員	3	他の団体がやったものに相乗りしている傾向が非常に強い。市は何をやったのかという話しになる訳で、それに対して具体的な助成をどうするかたちでやったのかが心もとない。本格的に企画政策課がリーダーとなってやるのであればもっとしっかりやっていただきたい。総体的に芸術文化関係は一杯のグループに別れてしまっているので、それを統合して一つの大きな流れにするためにどうするかをどういう枠の中で決めていくのかをこの期間の間にしていけば、音楽祭とか様々なものをやらなくても、それぞれ予算が足りなくて民間に寄附に回るといったパターンが多くなっているのでは、是非改善していただきたい。
佐々木委員	2	文化庁長官表彰は喜ばしいことだが、田沢湖芸術村・角館まちづくり委員会の成果である。仙北市単独で将来的にこういうことをやりますというものが全然見えない。所得10%をどのように増やすかプランが見えない。
牧田委員長	2	そういう文言が入るからにはそれなりの検討とやる方針と具体性ということで、このためにどういう人達を集めてどうするのかというところまで突っ込んで初めて新歳入はどうだという課題も出てくる。部分的には大きな実践はあるが全体として課題が一杯ある。

※平均評点 2.61

アクションプラン13【市・観光協会・地域団体との連携推進】 H24/7/19 第6回委員会

委員名	評点	コメント
佐藤委員	4	観光協会の統一は西木地区に関しては問題があるようだが、連携が必要なことは合併当初から言われていることで、まずはその方向に向かっていくことを評価する。
田口委員	3	連携のかたちで田沢湖・角館観光連盟というそれぞれの名前が残ったことは良かったと思う。仙北市ではなく確立されたブランドを大切にしていくという意味では良かった。角館と田沢湖の観光の性質は違うので、それぞれが競い合っていくという部分があっても良いのではないかと、自分たちの地域の為に一生懸命になることが大切であり、何でもかんでも一緒になれば良いということではないので、連携するところは連携し、競い合うところは競い合いながら、両輪で活動していければ良いのではないかとと思う。
堺委員	4	名前を決断したことが好印象で、今度名刺を配布しても一発でわかってもらえる状態になったのが非常に大きい。
佐々木委員	4	連携は厳しいとの認識だったので統一したことは評価に値する。
大和田副委員長	3	4年間で評価5に持っていくためのとても良い助走段階に入ったと思う。
牧田委員長	3	良い出発は出来ている。もっと連携を強めていくという確約をしながら次に進んでいく展望は開けたのではないかとと思う。
草薙委員	3	なし
橋本委員	3	観光協会については合併協議会でもめたことがあった。それがまた再燃するのではと感じていることがある。
西村委員	4	なし
藤村委員	4	連携することで所得アップにつながっていくと思う。口先だけでは無くみんなが一緒になって取り組んで欲しい。

※平均評点 3.5

アクションプラン14【新エネルギー・新素材産業への進出】 H24/7/6 第5回委員会

委員名	評点	コメント
草薨委員	1	なし
橋本委員	2	チェック体制が一番ぬるかったということだと思う。チップはしっかり乾燥されたものが来れば良いが何でも出せば良いで、チェック体制が原因だったと思う。
西村委員	1	バイオマス施設はこの教訓を生かすこと。新しいもの好きで飛びつければいいものではない。普通のそろばん勘定からすれば1日も早く止めればいい。止める決断そういう勇気が役所の人はない。1回やってしまうと何とかしなければならぬということ、それがずるずるとこれから20年とか補助金をもらったから何とかしなければならぬということ、それが命取りになる。
藤村委員	2	木質バイオマスでチップとか関連したものは使えるということは良い。例えばもみ殻とかそういう可能性についても検討してもらいたい。
佐藤委員	2.5	進捗状況としてはかなり厳しい。グリーン産業の育成はこれご時勢で不可欠な部分があるので、これからかなり頑張ってください。
田口委員	1	所得を向上させるためにこの新エネルギー・新素材産業に参入する業者を育成するというのが目的なので、そこは出来ていないし着手も出来ていない。
堺委員	2	太陽光という希望的観測はあるが、あくまでも過去の実績に対してなので修繕して稼働させたということを検討しての評価。
佐々木委員	1	評価に値しない。
牧田委員長	1	バイオマス施設に関しては、この教訓を絶対大事にしてもらわないと大きな損失になる。

※平均評点 1.5

約束③「医療を再生し福祉を充実します」

アクションプラン15【医師確保事業（テナントドクターズ・奨学金）】

H24/6/3 第7回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員	2	将来の医療体制がどうなるのかをちゃんと見据えた上で計画をする必要があると思う。テナントドクターズは、選挙の際にはこれが出来れば田沢湖の医師不足は解消されるような話だったと記憶しているが、国からの特区の認可が必要で、それが適わなかったということは最初から実現性に無理があったのではないか。
堺委員	2	22年度は何もやらなかった。地域が過疎化することは目に見えていることなので、22年度はこの地域の医療プランをみんなで考えればいい期間だったと思う。約束の連発、あれもこれもやりますという政策に翻弄されているのではないかと強く感じる。
佐々木委員	3	テナントドクターズ制度等努力は認めるが、医師確保はそれだけ困難だということ。奨学金についてはそれなりに評価できる。あきらめないで継続することが大事。
大和田副委員長	2	テナントドクターズ制度の導入という目玉にしたものが出来なかったということで終わっていて大変不満。代案が出ていないことも不満である。
牧田委員長	2	事業化するにはそれなりの調査が必要で、見通しを持たずに駄目かもというところからスタートするのなら止めたほうが良いと思う。テナントドクターズ制度は明らかに調査不足である。
草薙委員	2	全体的に足踏み状態。
橋本委員	3	あの手この手を使って医師を確保するというので、すごく頑張っているとはまでは言えないのではないか。
西村委員	2	問題意識を持って頑張っているようだが、事務方だけ頑張っても仕方がない。勤務医は大変だから少ないということだと思う。苦勞の分だけの報酬があれば良い。1年間の赤字の額が決まっていて、それを市民3万人で割ると一人いくらの負担で安心安全な医療を求めているかが分かると思うので、職員数を減らしてお医者さんを雇ってほしい。市民は喜ぶ。今の2倍位の給料を貰えたら勤務医も喜ぶし開業なんかしない。外からもすぐ医者が来ると思う。

※平均評点 2.25

委員名	評点	コメント
田口委員	3	病院をどのようにするべきかということについては、委員のみなさんそれぞれ意見があると思うが、この件については審議委員会が設置されそこで議論されたと認識している。病院は住民にとって極めて重要なものであり、安心して暮らしていけるよう議論を尽くして頂きたい。
堺委員	2	新しい病院が出来ればこういう医療体制が出来てというようなことを、病院が古いからとかアスベストの問題等だけを理由にしないで、ぜひ新しい病院が私達に安心感を与えてくれるという話しをお願いしたい。
佐々木委員	3	それなりの審議委員会が伴っているが、中身ありきのような感じがある。以前に田沢湖病院の事業計画の段階で赤字にならない計画を見せられたが、結局、角館病院も同じようになるのではないかの心配がある。田沢湖病院の赤字と角館病院の赤字を市民が病院会計にどれくらい繰り入れをするのか、みんなが不安になっている可能性があるということを踏まえて、そのような救急態勢や医療体制を組んでいただきたい。今は先進医療の時代、スーパードクター的な人が来れないとしても色々な分野のすばらしい機械が出ている。医師確保と同時に最新の医療機器を整備して、これを売りにするような計画を組んでいただきたい。
大和田副委員長	3	建物の老朽化など改築の緊急性は十分に理解出来るが、それでは新しい病院はという時に、高額の予算を投じてどういう病院を作るのかというビジョンが見えないことがとても不安である。角館の救急に行ったら大変だよと言われている。角館なら安心だという医療態勢をどうやって作っていくかということは、医師に来てもらえれば解決する話ではなく、医師と医療スタッフと事務方の皆さんとの総合力で仙北市の医療はこうするんだという熱意がかたちになっていくと思う。建築だけに気をとられることなく、是非そういった論議を始めていただきたい。
牧田委員長	3	仙北市全体の医療をどうするかという観点から、心の問題も含めてかなり評判が悪い。福祉関係者から様々な意見を聞くが、高齢者が怒鳴られたり、不十分な診断で誤った投薬があったり、勿論、他の病院でもあることだが、悪い噂が広まることは良いことではない。
草薨委員	2	全体的に足踏み状態。
橋本委員	2	病院を新しくするだけで患者が来ると思っているのは駄目。救急の場合は大仙に行ってもらおうとか簡単に言うが、建てればそれで良いではなく色々と考えないといけない。
西村委員	2	なし

※平均評点 2.5

アクションプラン17【田沢湖病院救急医療再開対策事業】 H24/8/3 第7回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員	2	担当部署からの説明を聞いて救急医療の再開にはいろいろ難しい問題があることが分かった。人の命に関わることなので十分議論を尽くしてもらいたい。
堺委員	2	救急医療体制を再開するための最低限の条件を提示しないといけない。医者が何人必要で、患者が何人で、これくらいだったらやれますよということをはっきり言わないからダメだ。赤字幅が市で持てるのはこれくらいだと言って、その為にはどういった努力が必要かを言わないと、いつまでも幻想というか、今の3人のお医者さんでは出来る訳がない。そういうことを言えるかたちのなかで是非やっていただきたい。
佐々木委員	2	2次医療圏で大曲の組合病院まで行くなら、それより秋田市に行ったほうが良いのではないかと、又は盛岡まで行ったほうが良いのではないかと、地理的にはそうなっている。態勢を大至急作らなければいけないということをお願いしたい。
大和田副委員長	3	医師に来てもらえれば解決する話ではなく、医師と医療スタッフと事務方の皆さんとの総合力で仙北市の医療はこうするんだという熱意がかたちになっていくと思う。是非そういった論議を始めていただきたい。
牧田委員長	—	評価なし
草薨委員	2	全体的に足踏み状態。
橋本委員	3	田沢湖病院については地域性もあるので頑張ってもらいたい。
西村委員	2	なし

※平均評点 2

アクションプラン18 【「癒しと医療」まちづくり事業】

H24/8/3 第7回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員	2	温泉マイスターについては認定された人数は多いが、講習会を1回受講するだけでマイスターになれるということではマイスター自体の価値が低い。また、運用主体が外部団体であり、マイスターになった人が現在どのような活動しているか市は把握していないということなので、観光に活かす取り組みや、医療との連携もされていないのではないか。
堺委員	3	良い事業であり、何故もっと上手く活かせないのかなと感じる。この地区は昔から長期の温泉利用が多く温泉療法の魁のような場所だったのが、段々と一泊の旅行が主流になり現状になっているので、こういった取り組みを機会に長期の温泉療養をメインに据えて観光振興していくことが非常に大事なことだと思う。そのため、今の段階で終わってしまっているのが非常に残念である。もっと大きな枠組みで取り組んだほうが良い結果に結びつくように感じた。せっかくなので団体客だけではなく、湯治客を増やすような視点の変化が新しい観光客を呼び込むためのキーになると思う。市川先生と共に是非頑張っていたきたい。
佐々木委員	1	今後伸ばせる大事な事業のように感じる。仙北市の売りになるよう行政も積極的に関与すべきである。身体と心の健康に温泉という資源を全国的に発信すべきである。
大和田副委員長	2	行政サイドの取り組みとしては、民間のやる気や発意を、遠慮しないで全面的に応援しますというような気持ちで臨んでいただきたい。
牧田委員長	3	狙い自体はとても大事なことで、高齢化社会のなかで孤立している高齢者がどんどん増えてきている。そういう人たちが温泉に来て、マイスターが丁寧に入浴法を教えて、癒しの場として温泉を活用するということはとても素晴らしいことだと思う。そういうことを、系統的に発展させることを行政サイドでも取り組んで欲しい。全国に先駆けて仙北では心と体の癒しに温泉を使っているということを実践しながら全国にアピールするぐらいの迫力を持って欲しい。
草薨委員	2	なし
西村委員	3	得意なことを伸ばすということ。ここは昔から温泉や湯治場が沢山あってそれが一つの文化だった。それが、お客だけとれば良いということで大きなホテルが出来て、団体客がこぞって来て、温泉の利用の仕方が変わってきていたのだが、もう一度原点に戻って、玉川温泉のような長期湯治の場所もあるので、そういうかたちで温泉を活かすまちづくりを頑張りたい。入湯税の問題は、以前より少なくなったとはいえ相当なお金が生み出されている。目的税だったはずでありもう一度考えるべきである。1億を超える入湯税が目的と違うところに使われている。例えば長期湯治が出来るように補助するとか、温泉の利益は温泉に還元するということを考えてほしい。

※平均評点 2.28

アクションプラン19【小規模多機能型福祉施設整備促進事業】 H24/8/3 第7回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員	4	地域にとってとても必要な政策だと思う。小規模多機能型施設の認知度を上げる努力をしていただきたい。
堺委員	3	介護ビジネスの一端を見たという感じ。介護ビジネスの名のもとに域外から進出してくる事業所が沢山ある。そういった一種の闇のような部分を垣間見た気がした。長寿支援課から色々な回答をいただいたが、肝心の場面になると違う組織の名前が出てきて、何処が何をやっているのか良く分からない。
佐々木委員	4	評価出来るのは2つの事業所を前もって選定して、段取りをしたということ。要介護度だけではなくて、例えば、高齢で夫婦二人だけになってしまった方々のための何かが今後は必要になって来るかもしれないし、限界集落の可能性もある。集落移転なども含めて、色々なことをやって欲しいと思う。
大和田副委員長	3	今後はこういったスタイルの施設が増えていったら良いと思うしニーズはあると思う。地域に開かれた積極的な介護施設といった感じがするが、促進事業といいながら促進している感じがしない。2施設の立ち上げ等に関して行政がフルサポートしたという評価で今後を見届けたい。
牧田委員長	4	方針は地域に開かれた施設であり義務づけられている。この効果は施設を作ってみて良さが分かったという部分もあり、こういう機会を与えてもらったという点では、国・県・市、そして広域市町村圏組合も含めて総合的な指導をいただき運営している。好意的な状況である。
草薙委員	4	今後成果が出て来ることに期待。
西村委員	3	是非みんなの意見を聞いてニーズを把握し、必要な施設やサービスを出来るだけ早く提供してもらいたい。長寿支援課は華やかに見える課ではないのかもしれないが、ここにお世話にならない人が沢山いることなので頑張っていたいただきたい。新しい事業形態を導入し、モデルになりそうな2施設が運営されていることは評価出来る。

※平均評点 3.57

アクションプラン20【障害者の職場づくり推進事業】

H24/8/3 第7回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員	3	なし
堺委員	3	なし
佐々木委員	3	アンケート結果を集計しているだけで、市の方針がないように感じるので市がリードするという気概をもって頂きたい。
大和田副委員長	2	委員会は実施部隊ではないので、あくまで参考意見を聞くということだし、アンケート調査も一つの資料であって、やはり現場のヒアリングや、色々なことで普段から皆さんが掴んでいる情報から、行政サイドでそこを練っていく、その提案と民間企業とで相乗効果を生み出していくことだと思っているので、そういったアクティブな行政マンになっていただくことに期待する。
牧田委員長	3	なし
草薨委員	3	なし
西村委員	3	なし

※平均評点 2.85

約束④「市民分権を進めます」

アクションプラン 2 1 【地域運営体の設置】

H24/6/5 第 3 回委員会

アクションプラン 2 3 【地域運営体予算の確保】

H24/6/5 第 3 回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	2.5	地域運営体以外の市民主体の活動に対する配慮がなく、ややもすれば地域運営体が町内会等団体の上に来るもので、市→9地域運営体→町内会やまちづくりの団体というピラミッド型になっている懸念がある。その整理が出来ていない。また人材の育成、自分達がやる気を持ってまちづくりをやっていこう、地域のことは自分達でやろうという人達に対しての直接的な支援がなく地域運営体に偏り過ぎている。
大和田副委員長	4	私達よりも本当に苦勞して頑張ってこられた人生のベテランの方々が必要に熱く燃えてやってくださっている姿だけでも若者にとっては励みになるし、乗り出して何かやろうとする動きが生み出されていること、全ての運営体の中でそれが始まっていることは大いに評価出来る。
佐々木委員	4	9地域全部に出来ていること、独自性を発揮されているところがかなりある、市長の狙っているところがかなり出て来ている。課題としては、2年後いかにボランティア組織、若者、地域振興に結び付けて引き継いでいくかということがわからない部分があること。予算がなければそういうことも出来ないし、24年度も各地域運営体から事業計画が出て来ている。
橋本委員	5	失敗してもという考え方、ジャンプする気持ちを持たないと、公金だがやってみようとする力を持たせないといけないから、そういう意味ではどちらも最高の評価としたい。
牧田委員	3.5	育てていく次に伝わるものをどう作っていくかという対予算効果が課題。活動の実績も含めて残りの2年の課題として残っている意味で、21が4、23が3で合わせて3.5。
佐藤委員	4	予算の付け方や事業の進め方をもう少し検討する必要があるが、まずは9地域に発足したことが重要である。それによって地域ごとの課題も見えたこと、意見の集約も、出来上がってスタートしないとわからなかったことであり、それが出来たことは大きな評価である。
西村委員	5	地域に投げかけたことが本当はずるいとは思ふ。本来は市役所でやるものだが、民意が色々なことで下がってきているからそれをやるためのカンフル剤で500万円をやった、その方法もあり、考え付いたこともアイデアも、それからそれに踊らされて今やっていることも良いことだと思ふ。悪い結果が出るのもその地区が持った頭脳とアイデアだから仕方がない。そこから出てくるものが良いものなのか悪いものなのかは民意だから仕方がない。そういう手法もありだと思ふ。
草薨委員	3.5	計画して実施に入っていることは仙北市の他にない行政の一旦であって、これをどのように活かすかということはまだ考えなければいけないことが多々ある。

※平均評点 3.94

アクションプラン22【市民サポートセンターの開設】

H24/6/5 第3回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	1.5	市民サポートセンターがどういうことをやるのかという事がきちんと定義されていないという意味で、まだ必要な取り組みに着手しきれていないという評価。
大和田副委員長	2	着手しようとしていることを大いに評価して、でもマニフェスト通りでなくても良い訳であり、より良い方向に検討を進めていくということ、先行きをこれからはっきりさせてほしい。
佐々木委員	2	看板の名前を書き変えただけであること、それから最初から10地域のサポートセンターは無理があると思っているので、そういうことからすれば先行きが見えない。
橋本委員	3	手となり足となって外に出て地域住民の相談、それからアピール、それから色々なことが出来るような体制になるように、これから始まったばかりだから評価するがまだ足りないところがある。
牧田委員	3	情報伝達の質と量をもう少し高めていくという課題を持って取り組んでほしい。
佐藤委員	3	マニフェストとは違う方向にいていると思うが、良いほうに進むための検討をしているところが評価出来る。
西村委員	3	課題はいっぱいあるが、目的があって今年からサポートセンターという名前にしたことなので、色々なことをもっとやろうとしていることを周知徹底させていけば動いて来ると思う。
草薨委員	3	なし

※平均評点 2.56

アクションプラン24【行政組織の再編】

H24/6/5 第3回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	2	着手していないということではないが、どの程度効果を上げるのかが今ひとつ分からない。スタッフ制の導入もよいと思うが、市の「検討に取り組む」という説明は先送りしている印象を受ける。
大和田副委員長	2	模索中であるが着手しているとも言える。
橋本委員	3	職員が退職して減少して補充が少ない、部署が増えるということはただ人数を増やせば良いのではなく、関連性ある部署で出来るのではないかと、こっちの仕事をちょっと混ぜればあえて増やす必要はないのではないかと、そういうようなことも考えても不思議でないのではないかと思う。
牧田委員	2	市民の感情と、それを改善していくという具体策がもう少し見えて欲しいという意味を込めての評価。
佐藤委員	3	行財政改革に関わってくるので、行政組織の再編ということだけでの評価。やるべき方向には向かっているのではないかと思う。
西村委員	2	自己評価でよく3を付けたなと思うぐらい憤慨している。
草薙委員	2	常に市民達が言葉を発するところから見ると、全くこれに評価するのであれば私は代表して2ぐらいにしなければ、私達が常に働いている賃金の差があまりにも格差があるということで2にします。

※平均評点 2.29

約束⑤「徹底的な行財政改革を断行します」

アクションプラン25【市役所建設の凍結・再検討】

H24/6/21 第4回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	2	情報が充分市民に公開されておらず市民の中で充分議論し尽くされていない。かたちのうえでは進んでいるような感じはするが実態として充分議論されていない。
佐々木委員	2.5	検討委員会を作って結論を出し、内部の部長等会議も開いていることからすれば評価出来るが、実際は情報開示もない、市民は市庁舎がどうなるのかと思っている、職員や議員の庁舎であっては困るという意見が非常に多い。利用しやすい一体型の庁舎を作りますというコンセプトが全然発信されていない。
堺委員	3	行政は継続なりと言いながら、市長が替わるたびに市民をダシに使って、市民の意見を聴きましたと言って別のものに切り替えて時間だけがかかっていくのは不条理である。ただ規模とか場所とか予算だけを考えた市役所を作るという方針はダメである。
牧田委員	2	ここまでまとめ上げたその努力については評価したいが、限りなく多くの市民から賛同されることが望まれることが課題である。きめ細かい説明と論議がないと多くの市民に賛同されることは生み出せないし、自分達の役所だという認識は生まれない。
佐藤委員	2	市民等を委員とする庁舎検討委員会を設置して提言をまとめているので評価するが、情報が市民にもっと公開されるべきである。もう少し議論が必要、コストの面等でもかなり問題がある
草薙委員	1	コメントなし

※平均評点 2.08

委員名	評点	コメント
田口委員長	2	行財政改革チームの設置という点では達成されているが、やった中身が問題で、県内類似他市と比較すると行財政改革は厳しい現状と言わざるを得ない。
佐々木委員	4	良くやっている。民営化とチームを作って実際に稼働している。
堺委員	4	基本的には良くやっている。減点は色々なことに対してもう少し工夫する必要があるということ、やり方の中で不備な点は結構あるので今後の課題として残してほしい。
牧田委員	3	佐藤委員と同様
佐藤委員	3	福祉施設の民営化等、必要なことは必要に応じて進められていることが評価出来る。チーム設置は目的として達成されているが、具体的にまだまだ費用対効果や効率という面から考えると努力している部分がかかなり多い。
草薙委員	2	行政改革という字句が出てくるが、私達市民ではどこにどういうかたちの中でどうしてどの部分がどう変わっているということが見えてこない。

※平均評点 3

アクションプラン27【職員給与・特別職報酬等の見直し】 H24/6/21 第4回委員会

委員名	評点	コメント
田口委員長	1.5	賃金が人事院や人事委員会の勧告に準拠するのは、ストライキ権がない等労働基本権に制約がある為との説明だが、勧告は民間賃金と同等水準となるようにするのが大原則あって、勧告に準拠することによって市内の民間賃金と大きな開きがでるのは釈然としない。
佐々木委員	2	特別職の報酬を下げるのが妥当なのか本当に良いのかと思う。片方では人事院勧告という武器があって、逆に仙北市は市長が職員にスト権を与えて給与削減まで踏み込めたらすごいと思う。
堺委員	2	市民感情からすると職員数も多い、給料も高い、一般人の感覚からすればこの程度の取り組みで職員給与・特別職報酬等の見直しをやったという評価にはならない。トップの意向があれば下げること可能ではないか。
牧田委員	2	人事院勧告は大事だと思うし、それに従ってやるしかないとなると、外部評価にあるように職員数と給与総額ともに痛みを伴う改革の断行が必要で、これを実践するしかないと思う。
佐藤委員	2	職員の数を減らしていくことしか考えていないが、減った時に仕事量が減ることはないのか不安である。そこまで考えているのか不安である。そういう部分の将来ビジョンもはっきりしていないと不安である。
草薙委員	2	コメントなし

※平均評点 1.91

アクションプラン28【民間からの任期付き職員採用】

H24/7/6 第5回委員会

委員名	評点	コメント
草薨委員	なし	良いにつけ悪いにつけきちんとするものはきちんとしていかなければ、いつもこのようなずるずるの問題では大変なことではないかと思う。一番困るのは市民である。
橋本委員	2.5	1人あたり66万2千5百円という1か月の給与からすれば、成果が見えてこない。
西村委員	3	民間のノウハウを活用する気持ちもわかる。職員が他市より1.5倍いる割には結局知恵がないから他から知恵を借りる、この後研究成果が発表されて、それが高いか安いかはみんなの評価に任せるにしても、外から教を乞う、臨時に知恵袋を借りるとするのは安くはないのは当たり前である。途中で投げ出すような人を人選してしまったこと、総務部長が慰留に努めたが止めた理由が一身上の都合というのは、本来であれば任命して給料を払った人はしっかりとしたことを聞くべきである。そこまでやれないから甘いと言われる。もう少し徹底してやるべきだった。
藤村委員	2	認定農業者協議会としては付き合わせてもらっていた。高給過ぎる点、1名に関しては非常に頑張ってくれたと評価したいが、もう1名は上に気を使いながらその政策が出来なかったのではないか。
佐藤委員	2	職員採用の金額が高く驚いたが、それなりの結果を残していれば全く問題ない。この仕組み自体も素晴らしい仕組みだと思う。それだけに途中で1名退職してしまったこと、採用する時の色々なチェック等が少し曖昧で甘い部分があったと思う。成功報酬や出来高制等色々なやり方があったと思う。
田口委員	2.5	民間からの任期付き職員採用ということだが、もともとの目的が行政改革なのか、それとも商品開発なのかが判然とせず評価しにくい。目的が商品開発だとすればそれなりの成果をあげたと言えるかと思うが、行政改革だとすれば採用した人数が2人では少なすぎて効果はなかったと考える。
堺委員	2	この政策は門脇市政の最大の目玉商品の分野に入っており、この2名の方に関しては目玉商品だった。結果的にほとんど成果を出せずにそのまま市を去ってしまい、今の総合産業研究所には民間の出向者は誰もいない。今後どのようにしてやっていくかに暗雲が漂っていると感じる。1名に関しては人選ミスであったし、二重社員の問題に関してしっかり調査していただきたい。
佐々木委員	2.5	食育に関して給食センターの一本化は市の職員でもすぐに出来るはずでそういう発想が出来て当たり前だと思う。民間のノウハウを活かすというのは非常に大事なこと。頭の中で思うかたちでなく全体を見てやるという意欲は買うということで、一つはかなりレベルが高く発想は良い。しかし中身については任期付きで途中で辞めるということは放棄するということでもある。
牧田委員長	2.5	民間でもそうだが、その企業にとって将来どう役に立っていくかということでの人材の登用・採用についてはかなり厳密にやると思う。あとの計画にどう活かして仙北市の経営に役立っていくかということも考えられるような人材、是非今回の教訓をしっかりとお互いに考えて、次のアクションプラン5の時に必要な回答、皆さんから出された意見についてのこれからの改善点を表明していただきたい。

※平均評点 2.37

アクションプラン29【物品調達・業務委託の市内発注制度の新設】

H24/7/6 第5回委員会

委員名	評点	コメント
草薙委員	2.5	一般市民が業務委託を見た場合にああそうかというようなところまで見えるようであれば評価は高くするが、まだそれが見えて来ないので見えるように努力していただければ大変ありがたいと思う。
橋本委員	3	業種によって今現在どうなっているのかを見極めながら発注していかないと、ただ誰も申し込まないとか簡単にあまりにも高いからダメだとかそうではなくもう少し見てもらいたいと思う。
西村委員	3	事務方がもう1度精査したほうが良くないか。立ち入れない場所と立ち入れる場所、早々に出来るところが色々あると思うが、それをやらないから今までおかしくなっている。もう1回細かいところまで発注業務に携わるそれぞれの担当の職員に工夫してもらえれば良いと思う。さらに一層の努力を要する。
藤村委員	4	一般が90%以上指名入札、あと22年度から23年度まで若干上がっているということ、市内業者の育成については具体的でないのももう少し頑張ってもらいたい。
佐藤委員	3	やるべき方向は見えているのと、結果もわずかながら出て来ているので今後精査してもらってやっていただきたい。
田口委員	2.5	達成目標が90%なので、上半期2年間で80%ぐらいまで上がっていないといけないと思う。市のIT系事業の発注では、プロポーザル方式であるにもかかわらず特定事業者への随意契約のように運用されていると疑われる例があり、運用に問題があるということ指摘しておく。
堺委員	4	土建業の方々も角館も業者数がだいぶ少なくなり、地元落ちるような工事で一杯仕事をとっていただければうれしいというのが正直なところ。色々な点については皆さんと相談しながら更に地域発注を強化していただきたい。
佐々木委員	3	新しい業者もいないし、競争する大仙市とか秋田市とかと比べて仙北市が偏っている市だと言え。地元の業者だけしかやらないのではなくて、参考的に最低入札はこのくらいだというような、そこで間に合うくらいの範囲で最低入札を提案したらどうか、高く買う必要もないが最低でこれくらいの利益は少しあるということで業者に発注出来るようなシステムを作ってもらえれば良いのではないか。
牧田委員長	3	だいぶ努力はされているし数字として表れている。ちりも積もれば何とやらでそういう努力も大事だと思う。

※平均評点 3.11

委員名	評点	コメント
草薙委員	3	なし
橋本委員	3	個々の情報の徹底、どのようにして使うんだということで初めて良かったなと思う。個別的な指導をこれからどのようにしていくか、集落単位なのか団体でいくかが課題となる。
西村委員	3	実際に穴を掘ってケーブルを埋めるのが地元の業者だったとすれば雇用というか経済的にも潤ったのだろう。こういう時代だから田舎だから遅れないようにやるという考え方は良いことだと思う。
藤村委員	3	25年度目標70%に対して24年度でもう74%に達しているので目標は充分クリア出来ていると思うし、あとは全市、隣部落が入っていて隣が入っていないとか複雑な状況があるので早めに全市出来るように対応をお願いしたい。
佐藤委員	3	この事業自体は過疎地域にとって生活するうえでは非常に大事な情報の収集源、情報発信のネタでもあるし、防災とか色々な意味合いで非常に重要なものである。それでそれが全市民に平等に与えられるということはすごく大事なことだと思うのでこの取り組み自体非常に素晴らしいことだと思う。進捗率も順調だが利用率が低いのが若干気になる。
田口委員	3	3億円超の税金が特定の地域に偏って使われている。情報インフラの整備をするなら、NTTが既に自前で光ファイバーを引いた地域にもWi-Fiのフリースポットの整備など行い税支出のバランスをとるべき。また、「全市高速ブロードバンド化」という掛け声の元に3億円超の税金を使ったわけだが、本当に地域住民のニーズに合致したものなのか疑問。
堺委員	4	もう少し粘り強く交渉してギリギリまでNTTにやらせてもらう必要があったのではないかと。自前で持ったことはメンテナンスも含めて全て費用が仙北市にかかってくる訳なので、交渉しながらやっていくと経費的な問題でも色々な点でも有利だったのではないかと。基本的な考え方は全然OKだが、せっかくの光ケーブルを利用するためにどうということをするのかというソフト事業をしっかりと組み立てていかなければいけないので、防災は防災で関係ないという考えではなくきっちりとやっていただかないとダメだと思う。利用率が低いのは地域的に仕方がない。
佐々木委員	3.5	田沢湖高原地区は光ブロードバンド未設置地区のため観光客に不評であった。今後仙北市全体でどのような利活用をしていくかが課題である。
牧田委員長	3	良いことには違いないが啓蒙が課題である。これをどう有効に使うか、出来るだけ多くの人達が講習も含めて努力次第でもっともっと普及させられるという課題に取り組んでもらいたい。

※平均評点 3.16

約束⑥「次世代の育成に力を注ぎます」

アクションプラン 3 1 【少子化対策・子育てプロジェクトチーム活動】 H24/8/31 第8回委員会

委員名	評点	コメント
堺委員	2	結果が求められるのがマニフェストなので、途中経過ではないので、結果が出生率が5人に下がってしまったとの結果からするとダメである。
佐々木委員	2	将来の宝である子供と母親には出生・子育て・医療・雇用の問題が存在しており少子化・子育てについては、家族だけでなく行政・地域の問題でもあるということのを再認識する必要がある。そのため何が出来るか行政だけでなく地域の役割についても明示することも重要である。
牧田委員長	2	幼稚園・保育園のあり方検討委員会が設置されて協議が始まっていることに関しては取り掛かりとしては良い。それをこれからどう実践していくかということは出来るところでも実際に取り組んでいくこと。出会いの場づくりも色々な角度から実際に作っていくような論議の展開を希望する。
草薙委員	2	なし
藤村委員	2	積極的な市の取り組みが見えない。地域運営体に任せてただ婚活・愛のり列車をやったとかではなく、市がそれでは何を出来るかというのを、PDCAサイクルで半年とか1年で常に動いていかないと、常に積極的にPDCAサイクルの実施を受けていけば少しずつ改善するのではないかと思う。
佐藤委員	2	仙北市の将来にとってこの事業はものすごく重要な事業だと思う。少子化対策・子育て支援に対して市がしっかり取り組んでいるという意志・態度を市民に向けてもっと明確に、市民が少しでも安心出来るような子育て世代が安心出来るようなことを発信してもらいたい。
田口委員	2	出生率を4年間で6人から7人に増やすという目標自体に無理があると思うが、逆に5人に減ってしまっている現状では成果がでていないと言わざるを得ない。市の取り組みを聞いても必ずしも十分に取り組んでいるとは思えない。

※平均評点 2

委員名	評点	コメント
堺委員	3	仙北市は図書に関しては相当進んでいると思っていたが十分に活用出来ているかについては非常に不満。ただ統計データだけもって1年に312万円ずつもらえるからその分だけ図書を増やしていくというシステムはあまり関心しない。仙北市にある膨大な新潮文庫をはじめとしたたくさんの文庫を活かすためのシステムを学習資料館が率先してそれを子供達に見てもらうための活動をもっと重視していただきたい。
佐々木委員	3	自己評価と外部評価がなぜ高いのか疑問。条例を作ったからとか100冊の目標をうたっているからという話しもあるが、逆に、学校の図書が19,000冊も足りないのはどうなのかとの話しにもなってくる。
牧田委員長	3	環境を作っただけでは弱い。情操教育というかそれを通して人間形成をしていくということの大きな目標にこの図書のことがあるんだということであれば、決まった条例も誰も知らない、市民も知らないし、それがどういうふうこれから活かされていくかという具体的な取り組みがそういう意味ではこれからだと思う。
草薙委員	2	本を買えば良いというような感じなので、その本の活用の仕方が実質的にどのような仕組みの中でどのように利活用されて最終的にはどういう結果が出るというところまでいかないといけない。
藤村委員	4	本を読む・読まないというのは、これから条例を全市民に行き渡らせて、みんなが納得するようにすれば良い
佐藤委員	4	数値目標が達成されていること、読書環境自体がどういったものが環境を整えるということになるかももう一度考えていただきたい。
田口委員	3	目標の100冊が前に出てしまっていて、何のために本を買うのかという目的が不明瞭だと思う。

※平均評点 3.14

アクションプラン33【総合型地域スポーツクラブの育成】 H24/8/31 第8回委員会

委員名	評点	コメント
堺委員	3	民間主体で走らせているのに対して市が補助するかたちだと思うので、こういう団体を作ることの体育協会の各組織との間の関連性がどうなるのかということで、行政がどこまで出ていくのかということが非常に問題はあるのではないかと感じる。チャレンジデーも同じように行政が声掛けで必死になってやっている、喚起させて90%満たすというところが市のマニフェストになるのかが私にとってはわからない。
佐々木委員	4	スポーツクラブの設立やチャレンジデーにかなり前向きだという感じを市民は思っている。地域のスポーツクラブは小さいとか大規模とか色々なクラブがある訳です。いかに組み合わせて整理して上手く点から面に広げることが出来るのか、チャレンジデーも含めて健康に寄与させるということ、それでPPKで健康で予防することで医療費も抑えられるという感じになると思う。
牧田委員長	4	高齢化社会の中で心の活性化にも繋がっていくような中身だと思う。これを市職員が中心になりながら、ボランティアやNPOを組織しながら続けていくことはとても大事なことです。最終的にはそれぞれの地域で自分たち自身が主体になってことを運んでいく、そこにはあらゆるスポーツの専門的な人達も巻き込みながらそれを地域全体で進めていくことはとても大事なことです。
草薙委員	3	最も大事なものは体育協会だと思う。市から助成も出ているのでそういう姿が全然見えないのが実感。仙北市には体育・スポーツをやれる施設が色々なところにある。もう少し体育協会のあり方を十二分に検討されてこれからの仙北市の体育の充実に向けてほしい。
藤村委員	3	総合型地域スポーツクラブの設立とかチャレンジデーはすごく良いことだと思う。これも地域のNPOやそういう人に任せて市がどこまで関与しているのかが見えにくい。
佐藤委員	4	市民がスポーツに親しむ環境を整えるということは色々な意味で大事なことです。実際に順調に各地域にクラブが育成されているということ、チャレンジデーに関してはまだ90%の高い数値目標があるので達成は出来ていないが十分な評価は出来ると思う。
田口委員	4	スポーツクラブを運営している団体から市に対していろいろな要望が出ていると思うが、そういった団体からの話も聞かないと評価は難しい。そうした団体や、市民からの声を反映してスポーツ環境の充実に向けてほしい。

※平均評点 3.57

委員名	評点	コメント
堺委員	4	仙北市の選択肢の中では角館高校のこの規模での存続、それからもう一つは角館南校舎を定時制高校として、それから養護学校として使用するかたちになったことは非常に今のタイミングとしては良いということをやったので、行政の門脇市長が筆頭になって頑張ってくれたことに関しては非常に良いこと。
佐々木委員	4	生保内地区の市民については角館高校が一番在校生を輩出している。統合に関しては関心がない訳ではない。統合にあたり専門課程とか色々な条件闘争に切り替えていったということは非常に評価出来る。全日制と、定時制の昼間と夜間と、養護学校の件も出来たということはかなりの成果ではないか感じている。
牧田委員長	4	総合的に勘案しながら作られてきたものということ。
草薨委員	3	市民の立場から言うともっと市民にわかるように説明し対応するべき。
藤村委員	4	会議を6回やって集約出来なかったということは大変難しい問題だったのだろうと感じている。
佐藤委員	4	高校の再編が起こること自体、とにかく予算や全てのものが厳しいからこういうことが行なわれる訳であって、そういった厳しい状況の中で考えれば今回の結果としては十分評価出来る結果である。
田口委員	1	私は、高校を考える市民会議の委員だったが、統合ありきで進められたという印象を持っている。議事録も公開しようとせず、結局議会の審議も経ずに県に統合が要望されたわけだが、教育という地域の将来にとって極めて重要なことが、市民の声が反映されずに進められたことは残念だし、その進め方の手法には大きな問題があったと思っている。

※平均評点 3.42

委員名	評点	コメント
堺委員	1	頑張ったのですが結論は良くなかったというのが素直な感想。おもいきりという政策が必要だと思う。これからの頑張りまずは予算が伴いますよということなので、マイクロキャンパスについてはいい加減な補助金を持って来てこれで交渉してくださいという話しには応じられないので、しっかりとした決断を持って、市としても早く決断して積極的に乗り出していただきたい。
佐々木委員	2	大学キャンパス誘致は非常に大事なことで、農業の体験学習などを小中学校がやっていてそれと同じくらいのインパクトがある事業なので、リピーターになる確率がかなり多いと思う。学生が来て仙北市を紹介して良いところを全部出してくれる訳ですから絶対に必要。
牧田委員長	2	全く可能性がないということではなく、これまでの2年間のパイプを大事にしながらか発展させていくという決意もわかるし、近隣の県との関係で可能性を求めていくという目標もわかるし、この後にあと1年2年で評価が3になったり4になったりすることを目指してほしい。
草薙委員	2	中途半端でなく決断が大事。
藤村委員	2	先に2年やって、たぶん1年やって2年やって先行きが見えない時に次にすぐ転換して、次にすぐにスライドしていかないとどんどん遅れて4年になってしまう。そこをスピードアップしてもらいたい。
佐藤委員	2	やはりこの事業も市に与える影響は大きいと思う。大学生がこの地域に来ることの意義はものすごく大きい。経済効果だけでなく市に与える活気とか本当に大きいものがあると思うので今後に期待したい。
田口委員	1.5	キャンパスを誘致するという話ではないが、この夏ある大学の合宿の案内をした際、合宿の受け入れ体制を充実させることで合宿の誘致を増やせる可能性を感じた。学生が視察する際のコンテンツの整理、案内人の育成、移動に利用する車の整備などなど。長野県飯田市では学輪IIDAというネットワークを作り大学の合宿誘致に取り組んでいるが、体制を整えることで仙北市でも大学の合宿を増やすことが可能だと思うのでそうした方向でも検討して頂きたい。

※平均評点 1.78

約束⑦「生活を守る仕組みを強化します」

アクションプラン36【暮らし支援事業（相談窓口・生活資金貸付充実）】

124/8/31 第8回委員会

委員名	評点	コメント
堺委員	3	市役所職員全員が相談窓口ということが基本ラインになっている訳なので、相談に来たら具体的な指図をするようなシステムを作ってあげれば無理して相談窓口としてやる必要はない訳なので、基本的にはそういうパターンで動くべきなのではないかと思う。役所内にいる人達がみんな相談に応じられる体制を作らなければいけないというのが役場職員としての宿命なんだろうと思う。課長だろうがなんだろうが相談窓口として私も相談に応じますよというかたちにする体制を早く作ることが一番良いことなのではないか。
佐々木委員	3	まだまだ市民にわからない部分がたくさんあるので改善の余地がある。今現在で行政連絡員と連絡を密にするという前提条件があれば非常にスムーズにいくのではないか。
牧田委員長	3	行政連絡員を復活させたということは大事なこと。
草薙委員	3	行政連絡員を復活させたということは大事なこと。
藤村委員	3	地域の市民窓口、地域サポートを考えるのであれば9つの地域運営体単位であったほうが地域の相談に一番適していると思う。
佐藤委員	4	相談窓口が7ヶ所で現状に適した状態で十分な体制が採れていると思う。今後増やす必要があるのかを含め議論は必要だが、現在のところは十分な取り組みが出来ている。
田口委員	2	社会福祉協議会がやっている事業に対しての支援、これは従来からの社会福祉協議会の事業だし、貸付も従来からやっていることなので、額が特段増えたということではなければ従来とあまり差がないということ。

※平均評点 3

委員名	評点	コメント
堺委員	2	特に税務課はお金を持ってきてもらう場所なのだから、あんなに難しい顔をしないでもう少し明るい顔をしてあいさつをしていただければ納税率も上がって色々な問題も起きないようになると思うので、是非そこらへんから改善していただきたい。
佐々木委員	2	電話で名前を言うのは非常に良いことで他はどこでもやっている。職務分掌と机の配置を出来る限り市民に開示をして欲しい、だれがどんな仕事をしているのか市民は全くわからない、どこに行けばいいかわからない。例えば窓口で部長や次長が1日交替で立って、来た市民に教えてくれれば良い。そういうことをしなければあいさつ運動の究極的な目的はならないと思います。
牧田委員長	2	それぞれの地域の中で住んでいる職員のみなさんが、地域の中で地域活動が色々ある訳だがそこに積極的に出ている人もいればそうでない人もいるということで、やはり一丸となって出て来て欲しいという声もある。あいさつ運動の先頭に市役所の若い人達がやっているんだと、だからそれでこういうことをやりましょうという徹底周知が生活を守っていくことにも繋がっていくんだということがわかるようなことをやっていかないといけない。
草薙委員	2	なし
藤村委員	2	目的として市民がお互いに思いやる気持ちを持つためということで、ではどこであいさつするのかという課題が見えて来ない、市民同士というよりも市役所と対面した時に気持ちの良いあいさつがあればそれが面白かったりして地域に帰ってまたということもある、ムスツとされればそれが地域に帰ってムスツとしてということもあるので、そこらへんから声をかけてお互い笑顔であいさつするようにしましょう。
佐藤委員	2	最終目的が市民声かけ運動と考えると進捗状況からすれば評価は2。
田口委員	2	最近よくなったと思うのは、市役所に電話をかけた際に職員が名前を名乗るようになったこと。以前、市役所に電話でなにかを依頼してもなしのつぶてになってしまうことがあったが、名乗ることでそうしたことを防ぐことにもつながると思う。

※平均評点 2

委員名	評点	コメント
堺委員	3	仙北市が2割から3割しか財源がないということが非常に良くわかる事業で、補助金がメインの事業をほとんどやらざるを得ないというかたちの中でやってきたことなので、市単体としての独自色を強く打ち出すということはなかなか難しいんだなということ非常に強く感じた。市の財政力の強化も非常に必要であるし、下水道の会計もどんどん重くのし上がってくるのではないかと感じて、是非財政の健全化が必要なんだということを感じた。総合評価としてはその中で良くやっていると思う。
佐々木委員	3	どうしても46号線・105号線・341号線の幹線だけは何とか守らなければならない、陸の孤島を防がなければならない、それを防災計画の中でもう一度煮詰めるものと思うが、人口が3万人が2万人になる時代、2万人を割る時代が来る、そうすれば今までと同じように出来るかというようなことからすれば市民から不評であってもこれしか出来ないよという時代がもしかしたら来ると思うので、幹線の部分だけは市民の生活を守るということで大動脈だけは何とか確保するような防災計画を組んでもらいたい。
牧田委員長	3	かなり頑張ってもらえているし良いのだが、将来の予測される状況の中でどのようなプランを作っていくのか非常に難しい話なのだが、それもやはり考えていかなければならない。
草薙委員	2.5	実質的に市民が全体像を把握出来ない。市民もある程度把握出来るような体制が必要だと思う。
藤村委員	4	ライフラインに係るインフラ整備の進行状況においては自己評価どおりで良い。
佐藤委員	3	インフラ整備に関しては順調にしていると思うが、内陸線は少し難しいところがあり、バスや乗り合いタクシーを含めた公共交通の将来的な計画が不透明な感じがしてそこが課題だと思う。
田口委員	—	評価項目が多く、またこの件に関しては十分な事前知識もないので評価なし。

※平均評点 2.64

7. 「政策検証市民委員会」各委員の見解等

牧田正臣委員長

今回の検証は5段階で評価するものだったが、「種」を新き育てている過程であり、必死に取り組んでも効果が見えないもの、また数年後に成果が期待できるものなどが低い評価になったケースが多々あった。

可能性に踏み込んだ論議は物理的に難しく厳しい指摘になった。大切なのは、関係者で後半に向けて検討すること。

- ①可能性を含んだ前進面及び課題を見つめ直す。
- ②それに基づいて再度目標・実践課題を明確化する。
- ③1年後の目標、数年後の目標を取捨選択し見直しも含めて設定する。

この2年、市のトップ・職員・市民がしっかり手を携えて政策実現に向かっているとは言いがたい。今後の2年を考えるとカギは連携にある。特に市長と職員の関係について、なぜ意思疎通不足が起きているのか、どう改善するのか早急に方向を出すことが有効。これなくして政策の実現は進まず、ひいては市民の願いに応えることにならない。

関係者が一丸となって政策実現に向かって取り組んでいただくことを切に願う。

大和田しずえ副委員長

本委員会には、細々とNPO活動をする一市民の立場から参画しました。

どの委員も皆、真剣に市政の現状を把握し、一步でも前進させたいとの願いを込めた発言を重ねました。

検証評価は、全体的に厳しかった感がありますが、平均評点 3.94 と最も高かったアクションプラン2 1「地域運営体の設置」、同2 3「地域運営体予算の確保」については、地域づくりへの市民の積極的参加を引き出そうとする一見無謀な方策ながら、誰かが（お役所が）やってくれるのを待つのではなく、自ら参加する場を創出しようという試みとして動きだしており、今後の展開が期待できると感じました。

この試みが市民の行政参加の促しであるとしたら、アクションプラン5「総合産業研究所の新設」は、行政マンが産業振興の実働部隊になるという新たな試みといえるものです。評点は厳しく、2という結果でした。仙北市の豊かな資源を活かした食品加工、商品開発はじめ、マーケティング業務等を担うことをねらった研究所として、粘り強く、実践してほしいと思います。そのためには民間とのタイアップは不可欠、怖れず市民の生産の場、ビジネスの場に乗り出してほしいと願うものです。

佐々木善一委員

＜アクションプラン16＞ 角館病院改革・新医療機器事業

審議会・市議会を通じ手続きを踏んで建設着手しようとしているのは一定の評価はできるが、建設場所の決定過程をみても、落合地区ありきのように見受けられる。今後人口減少が顕著になることが予想されており、それを踏まえた病院規模とし、最新の医療機器を配備し仙北市民に信頼される市民病院とすること及び、一般会計からの繰り入れを最小限にししていく経営努力が求められる。

＜アクションプラン17＞ 田沢湖病院救急医療再開対策事業

秋田県を代表する観光地、田沢湖に救急病院がないことは、誘客にも大きな影響を与えている。医師の確保という困難な課題があるが、再開に向け是非頑張ってもらいたい。

市立角館病院・田沢湖病院・国保診療所・歯科診療所の公的医療機関と民間医療機関の協議会を設立し、仙北市の医療態勢の確立を目指し市民に安心感を与えてほしい。また、医療の仙北市単位の一次、大曲仙北の二次、秋田県全体の三次医療との連携を踏まえ、仙北市医療の将来像を市民に示して頂きたい。

＜アクションプラン22＞ 市民サポートセンターの開設

市民を行政がサポートしていきたいという市長の基本姿勢は理解できる。しかし、サポートセンターの定義、必要な取り組みの内容を、職員にも、市民にもわかりやすく情報公開する必要がある。

＜アクションプラン25＞ 市役所建設の凍結・再検討

角館病院の建設という非常に大きな財政支出が控えており、財務比率も厳しい折り箱物建設を市民は望んでいない。田沢湖、西木庁舎をいずれかを本庁舎とし、老朽化している角館庁舎をどうするか至急検討すべきである。

＜アクションプラン以外＞

- ◎仙北市のアクションプランは主に市長の公約を主としているが、市長の目指しているところと職員の理解力にギャップがあり、もっとコミュニケーションが必要である。職員は、政策推進にもっと自信をもって業務を遂行して頂きたい。
- ◎今後、行財政改革により職員数も減少していくと住民サービスの低下が予想される。そのためボランティア組織を早期に確立することが求められる。
- ◎国保事業の不正と税金不正問題では仙北市は市民及び県民に対して行政への信頼を損なわせた責任は大きい。今後このような事件は刑事事件として取り扱うことを望む。また、不祥事防止対策とコンプライアンスの徹底を図るべきである。
- ◎空き家対策条例が大仙市・横手市・美郷町で施行されている。仙北市でも条例化を望む市民が多くなっているため、早期の条例化が求められる。
- ◎入湯税が現在一般財源に歳入となっているが、本来目的税で用途が決まっているはずである。温泉ボーリング・温泉マイスター・景観整備、アクセス整備及び仙北市内の温泉を仙北温泉紀行として点から面に展開し、全国への誘客PRのための原資として利用されたい。

草彌俊一委員

現地知る。足下を見る。

市政検証40項目に目を通させていただきました。市政とはいかに難しいものであるかを痛感しました。私の見聞と今後のあり方は、我が市の重点政策は米と観に尽きると思います。だから言う、合併から6年経過している、春夏秋冬数多くの遺産を持っている仙北なのに、エゴにこだわり、いまだに観光協会の統一すら出来ずに迷走している。仙北があつての田沢湖角館でありそれを忘れてはならない。

歴史と文化はどうする、きついかもしれないが、佐竹文化が仙北の分化ではない。縄文から前九年の役から千年戸沢文化、芦名文化そして現代まで、仙北、北浦の文化の継承はどうする。教えるのではなく伝えていく課題について検証する時を忘れてはならない。伝えてこそ仙北市活力を生む原点である。

田口秀成委員

※自身が選んだ3～4項目のアクションプランに関する見解と委員会の感想を400字～600字程度で記載。

田口秀成委員

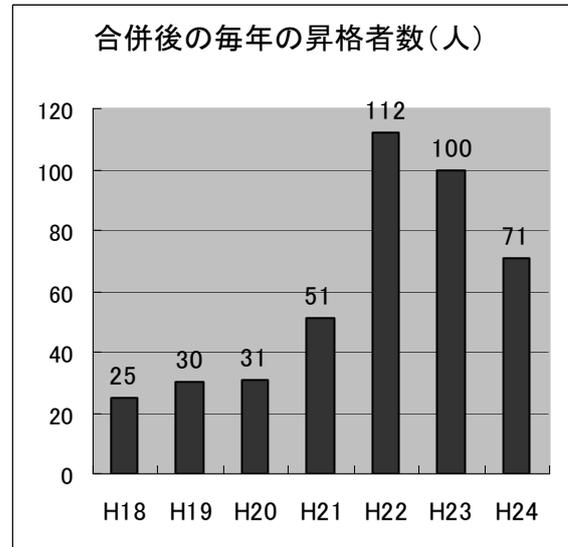
約半年の委員会を通して考えさせられる事が多くあったが、これからアクションを起こす必要があると考える2、3の事に絞ってコメントする。

■ 近年昇格が激増している

右のグラフに示すように、ここ数年職員の昇格が大幅に増えている。

委員会の席でここ数年課長補佐以上の役職者が増加していると指摘をしたところ「たまたま係長から課長補佐に昇格する職員が多かった為」という市の回答だった。納得できなかったので合併後の毎年の“昇格者数”、“新規採用者数”、“退職者数”のデータを請求し提供されたのが下表である。H22、H23年度と年間の昇格者数が100名を超えており、係長以外も昇格が増えていることは容易に想像できる。

それにしても激増と言えるほど昇格者が増加している。「職員給与の見直し」というアクションプランも実施されておらず、これでは「徹底的な行財政改革を断行します」という政策と正反対の方向に進んでいるのではないかと



	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
新規採用者	1	2	2	4	5	5	5
退職者数	11	13	25	25	20	24	
昇格者数	25	30	31	51	112	100	71
職員数	369	361	354	331	322	328	314

対象は、一般行政職。職員数は4月1日時点。
H24年度は、7月時点までのデータ。

～ 市民に知らされず行なわれていることも問題 ～

この大幅な昇格増は市議会の審議を経していないので市議会議員も知らなかった。昇格者が大幅に増えている事も問題だが、市民に知らされずに市役所の中だけで行なわれている事も大きな問題ではないか？

～ 正しい情報になかなか辿り着けない現状 ～

昇格が増えている理由を市に（メールで）質問したところ、「平成 22 年度より職務の複雑、困難及び責任の度合いを勘案し、級別資格基準を基本とし昇格基準を改正した。」との回答を得た。しかしその後「議会の審議を経たものか？」と質問したところ、前回の回答は間違いで「昇格基準は変えておらず運用を変えただけなので議会の審議は必要ではない。」との回答。更に、表のデータは一般行政職が対象である事を念を押して確認していたのだが、「水道及び病院事業職員も含んでいた。」とのこと。現在“病院事業職員”がどこまでの範囲の職員なのか再度質問しているが、このコメントを書いている時点(10/22)でまだ回答が得られていない。

委員会の中での市の回答に疑問を持ったところからはじまったやり取りであったが、しつこく何度も何度も質疑を繰り返しているいろいろな事が見えてきた。委員会における総合産業研究所の検証の際も、市の説明と、委員からの実態の話の間には大きな乖離があった。市から提供される情報は、悪いものは出さ

ず、良いものを強調する傾向があると感じる。

課題の解決は、現状に対する正しい認識が土台であると考えるが、正しい認識の為には正しい情報提供が必須である。不都合な事は伏せておきたいのが人情だが、不都合な事にこそ改善点があるはずだからむしろ積極的に開示すべき。

検証委員という特別な立場だから出来たという面もある。特別な立場でなくても情報が得られるようなんらかの制度が求められる。

■ 10年先、15年先までの定員計画の策定

第2次行政改革大綱実施計画書にH23年度からH27年度までの5年間の定員計画が示されている。当然、10年先、15年先までの長期計画があった上で直近5年間の計画を掲載しているものと思ったが、念のため質問したところ「10年先、15年先までの定員計画はない。」とのことで驚いた。

現在、仙北市の一般行政部門の“人口1万人当たり職員数”は、類似市町村の約1.7倍と非常に多い。市は定員削減を定年退職に依存していると思われるので適正化には長い年月がかかり、長期的定員計画は必須のはず。

長期的には労働人口が減り、短期的には合併の特例期間が終わり、今後財務が厳しくなる事が予測される中、10年後、15年後に仙北市の職員が何名になっているのかだれも分らないという状況でよいはずがない。

まず「仙北市のあるべき職員数」を定め、その次に「何年に達成するのか」を計画すべき。計画ができればそれを達成するための具体的施策の検討に入れる。速やかに取り組んで欲しい。

■ マニフェスト検証委員会の設置

政策検証委員会では、40あるアクションプランの中身を一つひとつ検証してきたが、39、40番についてはマニフェスト検証委員会が行なう項目であることから対象外とした。

39、40番は「約束8 4年間で実現します」のアクションプランで、マニフェストの達成度を検証・管理する委員会を設置し、その委員会が達成目標とする指標を策定した上で達成状況を評価するとしている。そしてもし不十分と評価された場合は政治的責任をとる覚悟だとしている非常に重要なアクションプランである。

マニフェストを言いつばなしにせず、市民の検証を受けて結果に責任を持つという姿勢は非常に立派であり、このアクションプランによってマニフェストは完成度の高いものとなっている。しかし、平成22年に設置するとしていたマニフェスト検証委員会は未だ設置されていない。

政策検証委員会の検証とダブるところはあるだろうが、例えば政策検証委員会では所得向上のアクションプランを検証したが、アクションプランを実施した結果として所得がいくら向上したかは検証していない。所得の最新値は173万円と公表されているが、これは県の発表している平成21年度の統計で、市が独自に公表しない限り直近の値は分らない。こうした検証はマニフェスト検証委員会の役割だろう。

市民は、マニフェストが達成されたかどうかを見て、次の選挙の投票の判断をする。そうであればこそ当選した市長に対してマニフェストを達成する強いモチベーションが発生する。結果を公表しないならマニフェストを公表した意味は大幅に減ってしまう。

政策検証委員会が行なわなかった検証を行い、来年の選挙までに市民の前に洩れなくマニフェストの達成状況を示せるようマニフェスト検証委員会を設置を急いで欲しい。

以上

橋本左武郎委員

全般的に、市長と上層部の意気込みが他の職員に伝わっていない部分があるように見受けられる。職員の意識改革が最も大事であると共に責任感を持つ事が望ましい。

アクションプラン5・6の「地産地消」は、地元野菜の学校給食における使用率が上向いている事、また特産品料理コンクールなどを評価したい。

アクションプラン15の「医師確保事業」では、色々と努力は見られるが、市民が満足できる成果が上がっていない。

アクションプラン22・23の「市民サポートセンターの開設」は、地域住民の連絡網として、また、地域運営体の活動内容の充実と交付金の有効活用の目的でもあり重要、地域の拠点でもある。

アクションプラン28の「民間等からの任期付き職員の採用」は、主な取り組みとして商品化事業とあるが、どのような商品が開発され生まれたのかの成果が不透明である。

アクションプラン29の「物品関連市内業者への発注について」は、2年に1回更新の競争入札物品納入にあたり適正に業者に通知しているか、また、地域性もあり疑問でもある。

アクションプラン31の「少子化対策について」は、子育て支援は最も重要であり、なぜ少子化なのかを考えると、雇用の場がないから若者は流出してしまう。行政と市民が一丸となって考えるべきだと思う。

大変まとまりのない意見ですが終わります。事務担当職員の方々ご苦労様です。

堺研太郎委員

＜アクションプラン5＞「総合産業研究所の新設」

この事業は門脇市政の最大の目玉政策として、所得10%増の魔法の玉手箱と期待された事業でしたが、見事に期待を裏切られました。様々な要因があったと思います。特に新規雇用した2人の人選ミス（2年契約が1年で退職）で、22年度はほとんど成果を出すことが出来ませんでした。行なった事業の羅列はありましたが、全く結果は伴わなかったと言わざるを得ません。更に、23年度も新商品開発等を行いましたが、成果に見るべきところはなく「所得10%増の魔法の玉手箱」夢のように消え去られました。24年度からは一新した体制で新規事業に取り組む体制のようですが、事業効率から考えても二重の作業が続いているとしか考えられません。（同じことをほかの組織でも行なっています。）人件費・事業費とも無駄遣いが多すぎます。早急に解体的改編が必要です。

＜アクションプラン21・23＞「地域運営体の設置と予算確保」

この事業も門脇市政の目玉政策であるが、事業目的には賛同できるが、仙北市内各種団体に対する補助金の削減方針に対して、著しく不公平な予算の執行状況は他の団体の意欲を削ぐものとなっています。各種団体は事業の展開に対して補助金の削減を奉仕の中で査定を受け、補助金の削減を甘んじて受けてまいりましたが、地域運営体は、領収書さえも要らない自由な掴み金で事業が行われ、事業結果も自由との判断は今後に影響が大きいと思います。そろそろ事業の見直しが迫られています。

西村隆作委員

<アクションプラン13> 市・観光協会・地域団体との連携推進

観光関係の委員として本編の中でコメントを出していなかったのでここで発したいと思う。

市民、市当局もまた外部の人達も、仙北市は、観光産業を中心とした外貨収入による経済効果で活力を得ていくしかないと思っているはずだ。ピーク年の宿泊者数80万人80億円の稼ぎが半分にまで落ちてしまった。早急に手を打たなければの共通の思いが実を結び、田沢湖・角館のブランド名を発信出来る観光連盟が出来た。西木の名がないことに対する不満を言う人もいるが・・・。

個人も企業も市町村も得意なことで稼ぐしかない。得意な分野のさらなるブラッシュアップで元気を得るためにこれまで以上の努力が必要な事を全市民が思わなければ総合産業である観光業は育たない。

<アクションプラン24> 行政組織の再編

市職員全員が県内他市町村より1.5倍多い職員数の中の1人だという意識の中で働いているかどうか、人数が多いのは職員個人の責任ではないのだが、数字的には他市町村の2/3しか働いていない職員に一人前の給料とボーナスまで支払っている事になる。それでいて、職員みんなの内部評価で4の点数がつけられている。その程度の意識の職員だから他市の1.5倍の頭数を揃えなければ市役所の業務が回らないのだと思ってしまう。何とも情けない話だ。

ならばどうすれば良いのか。全市民が、人数は多いがさすが仙北市は市民にとって住みやすい良い市だ、職員のみみんなも私達のためにかゆい所に手が届くように良く頑張ってくれていると実感させることだ。それ以外に市民の不満を解消する手はないと私は思う。

市長のマニフェストとフットワークの良さを評価する市民は少なくない。それを政策に盛り込んで頑張っている事に対してはまだまだの感もあるが・・・。

市民の満足度を上げるには、市職員全員が一丸となって現在の1.5倍働くしかない、それが出来ないなら早めに退職願を出してもらいたい。民間企業ならとっくにリストラを実行している。雇用促進の名目で人数を増やしたとすれば大きな間違いだと思う。

辛口な事を言って申し訳ないが、市民と市当局の全員との間で本当の協力関係が持てなければ明日の仙北市はない。是非一緒に頑張りたいと思う。

藤村隆清委員

市長の「明日を創る8つの約束」のマニフェストにおける政策の検証を22年度・23年度分で実施致しました。その中の3～4項目のアクションプランに関する感想を述べたいと思います。

一番の関心事は、政策2の「所得を10%以上増やします。」だと思いますが、2年間での評価は外部・自己・市民とも低いのが現状です。観光分野においてはまずまずの結果となっているが、農商工関連においてはほとんど効果が表れていないのが現状であると思います。では、どうしたら改善がなされるか、24年度・25年度にどう結び付けるかが大事ではないでしょうか。また、政策5「徹底的な行財政改革を行ないます。」においてもあまり効果が出ていません。「私がエンジンになります。」と言った政策1の項目では、首長の大きなリーダーシップを期待しました。市役所内部との意思疎通が十分になされていないように思われます。これからは、ハイブリット型で対応してもらいたいと思います。市長がエンジン、職員がモーターとなってそれぞれ力を出し合い、政策の目標達成を図って行きましょう。期待します。

佐藤裕之委員

今回の委員会では40項目に及ぶアクションプランについて検証しましたが、仙北市の将来を大きく左右する案件が多く含まれていました。そして、それらはどれも早急に検討し判断を下さなければならないもので、必ずしもうまく進んではいないと感じました。

予算規模が大きい市役所の庁舎建設・角館病院改築問題に関しては、いずれも将来に渡って市民が安心して暮らす為の重要な案件であり、内容・規模・場所に関して周辺地域の事だけを考えるのではなく、市民全体にプラスになるような無駄のない計画の策定を強く希望します。

少子化対策・子育てプロジェクトについては、地域の過疎化を防ぐ重要な施策であり、若い世代は収入面や子育ての環境に対する不安が大きく、更に出会いの場が少ないことから結婚に対して消極的であり、この状況を打開することは容易ではないが、仙北市はこの事に対してしっかりと支援をしていくという明確な姿勢を示していただきたいです。

今回この委員会に参加させていただき、今まで知らなかった“市政の現状”をより深く理解することが出来ました。市政にとって大切なことは、行政は必要な情報を丁寧に発信し続け、市民は市政の現状をもっと良く理解する努力をするということで双方の努力が不可欠です。そういった意味で委員会が今回このような形で行われた事は非常に有意義であり、この検証結果がより多くの市民の目に触れることを期待します。

8. 仙北市政策検証市民委員会 委員名簿

◎委員長 ○副委員長

NO.	選任区分	氏名	居住地	推薦団体等
1	公募	佐々木 善一	田沢湖生保内	
2	公募	草 彌 俊一	田沢湖卒田	
3	公募	◎田 口 秀 成	角館町小館	第4回まで委員長
4	市民生活	橋 本 左武郎	西木町桧木内	仙北市地域運営体連絡協議会
5	商工業	堺 研太郎	角館町中菅沢	仙北市商工会
6	観光産業	西 村 隆 作	田沢湖生保内	田沢湖・角館観光連盟
7	教育・文化	○大和田 しずえ	田沢湖卒田	アート夢ネットあきた
8	農業	藤 村 隆 清	西木町小渕野	仙北市認定農業者協議会
9	福祉・医療	◎牧 田 正 臣	田沢湖小松	第5回から委員長 NPOののはな
10	農林業	佐 藤 裕 之	田沢湖生保内	仙北市農山村体験推進協議会

事務局	総務部次長兼企画政策課長	佐 藤 強
	総務部企画政策課参事	戸 沢 浩
	総務部企画政策課政策推進係長	大 澤 裕 司